

教 育 資 料

平成10年度第2号

不登校や学習障害等を示す 児童生徒への援助・指導

- 調査研究のまとめ -

平成11年3月

京都府総合教育センター

刊行にあたって

21 世紀を目前にした現在、社会の変化は、文字通り日進月歩の著しさと、既存の学校システムや、旧来の児童生徒観、教育観、学校観の大きな転換をも含むものといわれています。そこでは、「生きる力の育成」「心の教育」「個に応じた指導」をはじめ多様な教育課題への対応が迫られています。

京都府教育委員会の平成 11 年度指導の重点「生徒指導の充実」においても、「学習におけるつまずきやおくれなどが問題行動の要因となり得ることを踏まえ、目的意識を持たせ、意欲を育てる学習指導の充実に努める。」「いじめや学校不適応などについては、個々の事象に対応できる組織的な教育相談活動を一層充実するとともに、その解消に向けた総合的な取組の充実を図る。」ことが明記されています。

京都府総合教育センターでは、不登校の要因の一つとして推測される学習のつまずきとLDとの関連を探り、不登校の予防と援助にLDへの対応を生かす方法を見い出すため、「不登校や学習障害等を示す児童生徒への援助・指導に関する研究」として、2 年計画で取り組んでいます。

その研究は、当センターにおける、平成 6・7 年度の「登校拒否の予防と援助・指導に関する研究」(トータルアドバイスセンター事業の一環) 及び平成 8・9 年度の「学習障害(LD)を含む学習困難な児童生徒の指導方法に関する研究」の研究を結合し、それらの成果を踏まえたものにしたと考えています。

今年度は、児童生徒が(原則として)400 名以上在籍する府内の小・中学校の協力のもとに、不登校等の児童生徒の学習や社会性についての調査を実施しました。

本教育資料は、調査結果をまとめ、不登校等の児童生徒への援助・指導にLD等への対応を生かす必要がある児童生徒が含まれていることを検証しています。

各学校で、この教育資料が有効に活用され、一人でも多くの児童生徒への援助・指導に役立てられることを期待いたします。

また、この研究成果は、来年度の研究だけでなく、研修・啓発及び相談事業にも生かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、研究の推進に当たり、多大な協力をいただきました全教育局、関係教育委員会及び調査実施校の先生方に厚くお礼申し上げます。

平成 11 年 3 月

京都府総合教育センター
所長 石 村 卓 也

目 次

第1章 はじめに

1 研究の主題	1
2 研究の目的	1
3 研究の仮説	1
4 研究の方法	1

第2章 調査の方法

1 調査の名称	2
2 調査の目的	2
3 調査の方法	2

第3章 研究の結果

1 学習や社会性における困難に偏りのある児童生徒とその比率	4
(1) 抽出の方法	4
(2) 精査の方法	4
(3) 不登校等の児童生徒に占める比率	5
2 学習や社会性における困難の偏りのプロフィール - 類型とその人数 - ..	6
3 分野別指摘率の特徴と項目別指摘率の特徴	20
(1) 分野別指摘率の特徴	21
ア 今年度の特徴	21
(ア) 言語	21
(イ) 図形・数・日常生活での数に関する力等	21
(ウ) 実技教科	22
(エ) 社会性・行動	22
イ 平成8年度の調査との比較	23
(2) 項目別指摘率の特徴	25
ア 言語	25
イ 図形・数・日常生活での数に関する力等	27
ウ 実技教科	28
エ 社会性・行動	29

第4章 研究のまとめと今後の課題

1 本年度の研究のまとめ	31
2 今後の課題	33

資料 調査用紙	34
---------------	----

第 1 章 はじめに

1	研究の主題	1
2	研究の目的	1
3	研究の仮説	1
4	研究の方法	1

第1章 はじめに

1 研究の主題

不登校や学習障害等を示す児童生徒への援助・指導に関する研究

2 研究の目的

京都府総合教育センターでは、平成6・7年度の2年間にわたって「登校拒否の予防と援助・指導に関する研究」を（トータルアドバイスセンター事業の一つとして）行い、平成8・9年度の2年間は、「学習障害（LD）を含む学習困難な児童生徒の指導方法に関する研究」を実施してきました。

学校における個に応じた指導の展開において、不登校や学習障害（以下LDとする）を含む学習困難を示す児童生徒への援助・指導が課題となっています。不登校（登校し¹ぶりの段階も含む）の児童生徒の中には、その背景に学習でのつまずきがある児童生徒がいることが指摘されています²。

また、不登校を主訴としているLDの事例報告もあります。

そこで、前記の各研究結果を踏まえ、不登校の要因の一つとして推測される学習のつまずきとLDとの関連を探り、不登校の予防と援助にLDへの対応を生かす方法を見い出すため「不登校や学習障害等を示す児童生徒への援助・指導に関する研究」に取り組むこととしました。

- 1 本研究では、登校し¹ぶりの児童生徒は、年間の遅刻または早退日数が22日以上の方としました。この22日という基準は、平成7年度京都府総合教育センター教育資料「学校教育相談の手引き - 登校拒否の予防と援助・指導(2) - 」の作成に伴う学校ストレスに関する調査研究において、学校ストレスが通常に登校している生徒と有意差が認められた遅刻または早退の日数が22日間以上であったことに基づくもので仮説的な位置づけをもつものとして扱っています。たとえば、「学校での様々なことがらを要因とするストレス」を感じた生徒の中で、「学校に行きたくない」と強く思う生徒とそれほど思わない生徒に分かれるのは、その遅刻または早退日数が22日間を越えているかどうかを境目としている、ということです。

なお、「登校し¹ぶり」は、国や府の調査統計等に用いられる公的な定義をもつものではなく、研究上の概念です。

- 2 平成9年12月の「生徒指導上の諸問題の現状と文部省の施策」では、年間30日以上欠席児童生徒の不登校のきっかけのうち、「学業の不振」は小学生4.6%、中学生12.3%です。

3 研究の仮説

不登校や登校し¹ぶりを示す児童生徒の中に、学習や社会性に関して「LDかもしれない」と考えられる特徴を見いだすことができる児童生徒が存在するのではないかと。

その存在を検証することで、不登校や登校し¹ぶりへの援助・指導にLDへの対応の在り方を生かす必要性が明らかにできるのではないかと。

4 研究の方法

- (1) 抽出した小学校・中学校における「不登校や登校し¹ぶりを示す児童生徒の学習や社会性に関する調査」の実施
- (2) 平成6年度から9年度の研究を踏まえた今回調査結果の分析と考察

第 2 章 調査の方法

1	調査の名称	2
2	調査の目的	2
3	調査の方法	2

第 2 章 調査の方法

1 調査の名称

不登校や登校しぶりを示す児童生徒の学習や社会性に関する調査

2 調査の目的

この調査は、不登校の要因の一つとして推測される学習や社会性における困難とLDとの関連を探り、不登校の予防と援助にLDへの対応を生かす方法を見い出すことを目的とします。

3 調査の方法

(1) 調査の内容

ア 調査

(ア) 不登校児童生徒数

平成 10 年度の 4 月から 9 月までの半年間で（平成 10 年 9 月 30 日現在）欠席日数 15 日以上の児童生徒の数

(イ) 登校しぶりを示す児童生徒数

平成 10 年度の 4 月から 9 月までの半年間で（平成 10 年 9 月 30 日現在）遅刻日数または早退日数のいずれかが 11 日以上の方

(ウ) (ア)または(イ)に該当した児童生徒の欠席・遅刻・早退日数

イ 調査

調査 に該当した各児童生徒の学習面や社会性におけるつまずきや困難の内容

言語（聞く・話す・読む・書く）

図形・数・日常生活での数に関する力等

実技教科（音楽・図工・体育）

社会性・行動（授業場面・クラスメートや教師との人間関係・生活習慣）

調査 の期間中の欠席日数過多のため調査 の回答が難しい場合は、調査 の備考欄を「調査 記入困難」とすることを求めました。

入院等による長期欠席が、明らかに「学校づらい」のためとは考えられない場合も、同じく備考欄にその旨の記入を求めました。（巻末資料 調査用紙参照）

(2) 調査の対象

ア 学年 平成 10 年度 小学校 4 学年～6 学年
中学校 1 学年～3 学年

イ 学校

(ア) 小学校 82校

抽出条件 在籍生徒数が 400 名を超える小学校（平成 10 年 5 月 1 日学校基本数調査）

ただし、上記条件を満たす小学校がない北桑田教育局管内については 100 名を超える小学校、同じく 2 校しかない与謝教育局管内と 1 校しかない丹後教育局管内については、200 名以上の小学校としました。

(1) 中学校 52校

抽出条件 在籍生徒数が 400 名を超える中学校(平成 10 年 5 月 1 日学校基本数調査)

ただし、北桑田教育局管内 2 校は条件を満たしませんが、全教育局を網羅するため調査対象としました。

(3) 調査の時期

平成 10 年 11 月から 12 月

(4) 調査用紙の記入者

調査 教育相談担当者またはそれに代わる者

調査 学級担任またはそれに代わる者

第3章 研究の結果

1	学習や社会性における困難に偏りのある児童生徒とその比率	4
2	学習や社会性における困難の偏りのプロフィール - 類型とその人数 -	6
4領域の内	1領域に偏りのある類型	7
4領域の内	2領域に偏りのある類型	11
4領域の内	3領域に偏りのある類型	16
3	分野別指摘率の特徴と項目別指摘率の特徴	20
(1)	分野別指摘率の特徴	21
ア	今年度の特徴	21
イ	平成8年度の調査との比較	23
(2)	項目別指摘率の特徴	25

第3章 研究の結果

1 学習や社会性における困難に偏りのある児童生徒とその比率

(1) 抽出の方法

学習や社会性における困難に偏りのある児童生徒の抽出は、表1-1の方法によりました。これは、平成8年度の研究でも用いたものです。これによるとまず128名が該当しました。

表1-1

困難の偏りに着目する抽出の方法			
「言語」 「図形・数・日常生活での数に関する力等」 「実技教科」 「社会性・行動」の4領域のうち、少なくとも1領域で20項目中10項目以上あること 10項目に満たない領域がある場合、その領域は6項目以下であること と を同時に満たすこと			
(例)			
領 域	指 摘 項 目 数		
	5年生A男	4年生B女	
言 語	13 (を満たす)	3 (を満たす)	
図形・数・日常生活での数に関する力等	3 (を満たす)	7 (を満たさない)	
実 技 教 科	2 (を満たす)	12 (を満たす)	
社 会 性 ・ 行 動	15 (を満たす)	0 (を満たす)	
5年生A男は「偏りがある」とみなす。4年生B女はみなさない。			

(2) 精査の方法

さらに表1-2のようなLD的な認知の偏りに関係する条件や、欠席・遅刻・早退日数の状況にかかわる条件に基づいて、128名のデータを精査した結果44名に絞りました。

第4章 研究のまとめと今後の課題のP.32に説明を掲載しています。

表1-2

除 外 す る 条 件 の 例	理 由
社会性の項目の困難だけでなく、他の領域の困難がまったくないか、または、ほとんどない。	学習面でのつまずきがほとんどないことは、「LDかもしれない」に結びつけにくい。
調査期間(半年間)ほとんど出席していない(欠席日数が極めて多い)。	困難として指摘されている項目・領域がある場合も、それらが学習空白によるものである可能性も推察される。
欠席等が多いのに困難を指摘される項目が全くない領域がある。	児童生徒の様子は部分的に把握できているが、授業欠席が多く、部分的情報であることを考慮して全項目を無記入とし

	た可能性も推察される。
欠席等が多いのに全項目が困難として指摘されている領域がある。	とは逆に、部分的情報から全項目の困難を指摘している可能性も推察される。

なお、上記除外条件のどれかに該当しても、平成 8 年度調査で指摘率の高かった項目(表 1 - 3)で指摘があれば、それを考慮し、「学習や社会性における困難に偏りのある児童生徒」として抽出した場合があります。

表 1 - 3

言語
○ 聞いたことがなかなか記憶できない ○ 的確な言葉を見つけられなかったり、詰まったりすることが多い ○ 一字一字は読めるが、たどり読みであったり、文字の順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い ○ 行をとばしたり、語を付け加えたりして読む ○ 促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない ○ 漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、鏡文字を書くことがある(アルファベットの文字に混同がある)
図形・数・日常生活での数に関する力等
○ 電話番号の数字を記憶する
実技教科
○ スキップ動作
社会性・行動
○ 雑音で課題から注意がそれやすく、持続することが難しい ○ 学習や活動への取り掛かりが遅い ○ ぼーっとしている時間が多くみられる ○ 忘れ物が多い
その他
○ 図形の作図、はさみの使用、折り紙等手先の器用さに関係する項目

(3) 不登校等の児童生徒に占める比率

調査を実施した学校の在籍児童生徒数は、小学校 22880 名、中学校 30294 名、計 53174 名で、そのうち不登校の児童生徒数(表 1 - 4 の A 欄)は、小学校 209 名、中学校 865 名、計 1074 名でした。

登校しぶりの児童生徒数(同 B 欄)は、不登校の人数よりも多数になると予想されましたが、計 748 名にとどまりました。これは、「登校しぶり = 遅刻または早退日数が 11 日以上」という条件では、特に中学校で該当生徒数が膨大になり調査の回答が困難なため、特に課題のある生徒に絞った回答も可とする等、各中学校の判断に委ねたからではないかと考えます。

表 1 - 4 の C 欄は、不登校の児童生徒と登校しぶりの児童生徒を合わせた(以下不登校等とする)児童生徒数(A + B)のうち、学習や社会性における困難に偏りがある(= LD かもしれない者を含む可能性がある)児童生徒の人数で、小学生 11 名中学生 33 名計 44 名ありました。

表 1 - 4

	学年	在籍児童生徒数	不登校児童生徒数 A	登校しぶり児童生徒数 B	A + B のうち学習等の困難に偏りがある人数 C	比率 X	前回(平 8) LD を含む学習困難な児童調査		
						C / (A + B)	在籍児童数(小17校) D	学習等の困難に偏りがある人数 E	比率 Y E / D
小学校	4	7327	49	29	0	0,0%	1538	11	0,7%
	5	7537	66	24	6	6,7%	1454	15	1,0%
	6	8016	94	16	5	4,5%	1642	14	0,9%
小学校計		22880	209	69	11	4,0%	4634	40	0,9%
中学校	1	9643	165	65	11	4,8%			
	2	10047	349	285	7	1,1%			
	3	10604	351	329	15	2,2%			
中学校計		30294	865	679	33	2,1%			
計		53174	1074	748	44	2,4%			

学習や社会性における困難に偏りのある児童生徒数(C 欄)の、不登校等の児童生徒数(A + B)に対する比率は、X 欄のような数値(小学校約 4.0 %、中学校約 2.1 %、計約 2.4 %)になります。

小学校児童の約 4.0 %という比率は、比較のために表 1 - 4 右端に記載した平成 8 年度の学習や社会性における困難に偏りのある児童(E 欄)の全在籍児童数(D 欄)に対する比率(Y 欄約 0.9 %)よりも、たいへん高いことが明らかです(検定の結果、0.1 %水準で有意差が認められました)。なお、図 1 - 1 は、比較可能な小学校だけを学年別で表したグラフです。

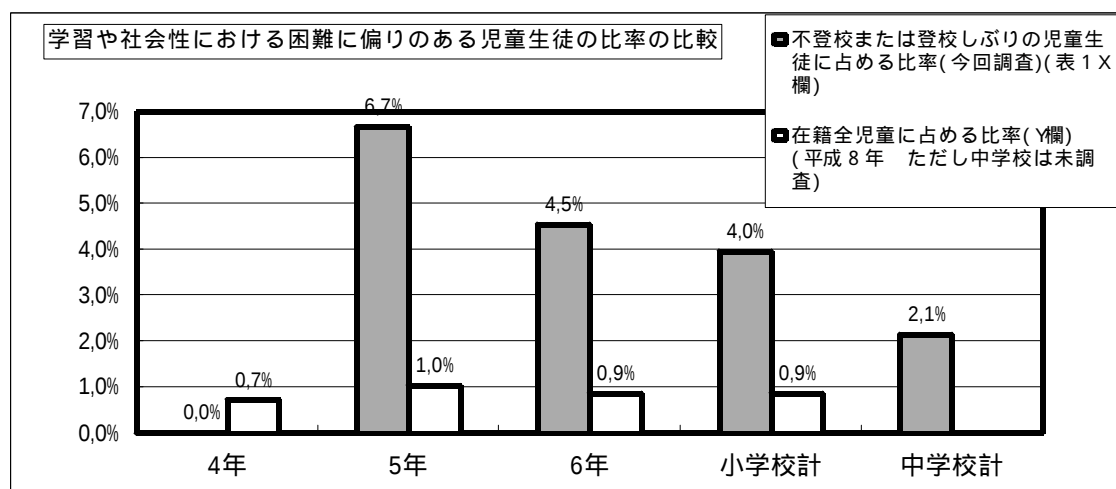


図 1 - 1

2 学習や社会性における困難の偏りのプロフィール - 類型とその人数 -

抽出した児童生徒 44 名の「言語」「図形・数・日常生活での数に関する力等」「実技教科」「社会性・行動」の 4 領域について、困難が偏る領域に着目し、プロフィールを作成し類型化しました。その結果、1 領域だけに偏るタイプ(4 種類)、2 領域に偏るタイプ(5 種類)、3 領域に偏るタイプ(4 種類)計 13 種類のタイプがあることが分かりました。p. 7 から p.19 には、各タイプにつき 1 名ずつ、欠席日数等、4 領域のプロフィール、及び困難を指摘されている項目表を記載し、その児童生徒の特徴と援助の方向性を簡単に示しています。

4 領域の内 1 領域に偏りのある類型

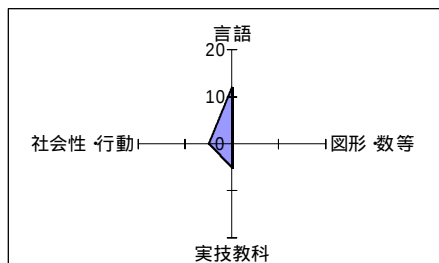
- 他と比べて《言語》に困難が多い -

< 例 > 小学 5 年生 男子

(1) 欠席等の日数

欠 席	遅 刻	早 退
0	1 1	0

(2) プロフィール



(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い 指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い 聞いたことがなかなか記憶できない 相手の話を聞いていないことが多い 話し合いについていけないことがしばしばある
	話す	会話がやりとりにならず、一方的に話す 特定の音が不明瞭である 助詞の誤りが目立つ話し方をする 的確なことばを見つけれなかったり、詰まったりすることが多い 話題に偏りがあったり、筋道なく思いつくまま話を並べて話す
	読む	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み違える 一字一字は読めるが、たどおり読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い 行をとばしたり、語を付け加えたりして読む 基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む 文章の内容を把握できない
	書く	基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う 促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない 「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない 漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、鏡文字を書くことがある ある程度まとまりのある文章が書けない
図形・数等の力	図形	基本的な図形を用いて、作図や図形の構成をする 図形（二等辺三角形、正三角形など）の特徴をつかむ 円や球について、中心・直径及び半径を知る コンパスを用いて円を描く ～の上に（下に）～の右に（左に）～の前に（後ろに）などの空間を表すことばの意味が分かる
	数	2 位数同士の加法・減法計算を30秒程度の時間内でする くり上がりくり下がり忘れず、4 位数までの加法・減法の筆算をする 多操作計算問題を解く（例 $8 \times 2 - 5 \times 3$ ） 万の単位について知り、それらの数の大小や順序を理解する 乗法九九を暗唱し、2 位数 $\times$ 3 位数で、正しい位取りで筆算をする 2 または 3 位数 $\div$ 1 位数で、正しい位取りで筆算をする 10 倍、100 倍、10 分の 1 などの大きさの数及びその表し方が分かる 簡単な小数、分数の意味を理解し、加法・減法の計算をする 棒グラフの読み方及び書き方を理解する 文章題を読んで、立式する（加法・減法・乗法）
	日常生活の数に関する力等	電話番号（市外局番を除く程度の桁数）の数字を記憶する 時間概念を表すことば（きのう・今日・あした、去年・今年・来年、より早い・より遅いなど）の意味が分かる 日常生活に必要な程度の時刻や時間を計算によって求める ～から、まで、より（よりも）、以上、以下、未満などの数の増減、時間、順序の基準になることばの意味が分かる 「重さ」「面積」の単位が分かり、測定をする

実技教科	音楽	鍵盤ハーモニカ、リコーダー等で学年相当の曲を演奏する 鍵盤楽器を演奏する リズムを伴った打楽器の演奏ができる 身体表現をしながら歌をうたう 他のパートとの協調を意識して合唱する
	図工	はさみを使い、直線や曲線に沿って紙を切る 折り紙の端を描いて折る 手指、掌等を十分働かせて、粘土で立体を作る 彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う 見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す
	体育	ラジオ体操等、徒手体操 かけっこ、リレー等の走の運動 幅跳び、ゴム跳び、反復横跳び等の跳の運動 登り棒、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動 縄跳び ボールの操作（投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等） スキップ動作 模倣の運動 表現運動 ゲーム（鬼ごっこ、ドッジボール、ボートボール等）
	社会性・人間関係	席にじっと座ってられないことが目立つ おしゃべりが非常に多い 雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい 新しいもの、難しそうなものだと「分からない、出来ない」と言って、学習や活動への取り組みが遅い 黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い ぼーっとしている時間が多くみられる 他児にちょっかいを出すことがとても多い 教師の注意をひこうとする振る舞いが多い 質問に対して的外れな答えをすることが多い 手悪さをしばしばする
生活習慣	生活習慣	相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い 他児へのタッチが強すぎたり、けんかが極端に多い いつも独りでいて、友達と口をきくことはめったにない 教師の問いかけに対して黙っていて答えようとしてない 教師からの働きかけに対して口ごたえが多い 忘れ物が非常に多い 遅刻が多い 机の中、ロッカーの中がとても乱雑である 偏食、過食、少食などが著しい 物をよくなくしたり、壊したりする

4領域の内1領域に偏りのある類型

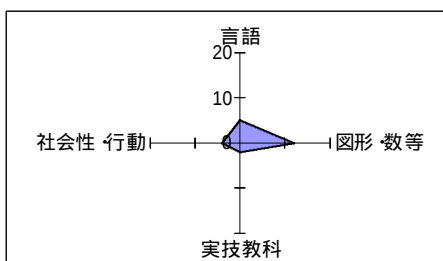
- 他と比べて《図形・数等》に困難が多い -

<例> 中学2年生 男子

(1) 欠席等の日数

欠席	遅刻	早退
22	0	0

(2) プロフィール



図形・数等に偏りのある児童生徒は、1領域に偏りを示す類型の中では最も多く、特に中学生に多く見られます。12名全員が社会性・行動における人間関係の項目に指摘は少ないのですが、その内9名は不登校にもなっています。

図形・数以外の領域では「自己有能感」をもちやすい可能性があります。教育相談等を通して、人間関係を深めながら、興味や関心のあることを糸口に、得意なことで自信をつけさせ援助していくことも必要だと考えられます。

(3) 指摘されている項目

語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い
	話す	聞いたことがなかなか記憶できない 相手の話を聞いていないことが多い
	読む	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み違える 一字一字は読めるが、たどり読みであったり、順序を読み違えておぼしたり戻ったり、混乱することが多い 話題に偏りがあったり、筋道なく思いのまま語を並べて話す
	書く	基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む 文章の内容を把握できない 基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う 促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない 「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない 漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある ある程度まとまりのある文章が書けない
図形・数等の力	図形	三角定規・コンパスなどの器具を用いて、図形(円、図形の合同、対称に関して理解する 基本的な立体の特徴を理解する などの空間を表すことばの意味が分かる
	数	2位数×(または÷)1位数の暗算をする 多操作計算問題を解く(例 12×3-45÷9) 一つの数を他の数の積や商としてみるなど、他の数と関係づける(例 3×4が12であることは分かるのに、12は3と何の積であるかがわからない) 百分率を用いた計算をする 変化する数量間の関係を表やグラフで表す 文章題を読んで立式する(加法・減法・乗法・除法)
	日常生活の数に関する力等	電話番号(市内局番を除く程度の桁数)の数字を記憶する 時間概念を表すことば(一週間前・同後、一昨日・明後日、一昨年・再来年、より早い、より遅いなど)の意味が分かる 日常生活に必要な程度の、おおよその長さや重さや容積の推測をする ～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間の経過や順序や比較の表現のためのことばを用いる

音楽	リコーダー等旋律楽器で学年相当の曲を演奏する
	リズムを伴って打楽器を演奏する
	他のパートとの協調を意識して合唱する
	集中して鑑賞する
美術	紙の端を揃えて折ったり、畳んだり、物を包んだりする
	手指、掌等を十分働かせて、粘土などで造形する
	彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う
	見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す
教科	ラジオ体操等、徒手体操
	リレー等の走の運動
	幅跳び、高跳び、反復横跳び等の跳の運動
	マット、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動
体育	縄跳び
	ボールの操作(投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等)
	スキップ動作
	模倣の運動
表現運動	表現運動
	ゲーム(バスケット、バレー、サッカー等)
授業態度	おしゃべりが非常に多い
	雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい
	学習活動への取り組みが遅い
	黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い
社会性・人間関係	ぼーっとしている時がしばしば見られる
	他の生徒にちょっかいを出すことがとても多い
	授業と関係ないことに没頭することがしばしばある
	質問に対して的外れな答えが多い
習慣	相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い
	他の生徒へのタッチが強すぎたり、トラブルやけんかが極端に多い
	教師の声掛けや働きかけに対して、過敏であったり攻撃的な反応をしめたりすることが多い(逆に、答えようとしなかったり、消極的反応が多い)
	話題が偏っていたり、その場の流れに合わない応答が多い
生	独りでいることが多く、友達と口をきくことも少ない
	忘れ物が非常に多い
	他の生徒よりワンテンが遅れる行動が多い
	机やロッカーの中がとても乱雑で、物をなくすことや、壊してしまうことが多い
習	身だしなみに極めて無頓着である

4領域の内1領域に偏りのある類型

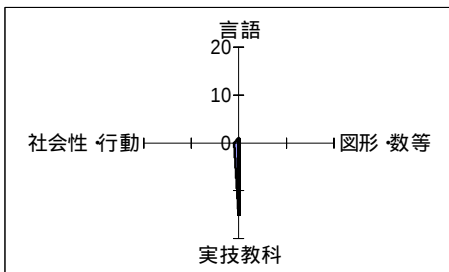
- 他と比べて《実技教科》に困難が多い -

<例> 小学6年生 男子

(1) 欠席等の日数

9	90	0

(2) プロフィール



(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い	音楽	鍵盤ハーモニカ、リコーダー等で学年相当の曲を演奏する
		指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動		鍵盤楽器を演奏する
		聞いたことがなかなか記憶できない		リズムを伴った打楽器の演奏ができる
		相手の話を聞いていないことが多い		他のパートとの協調を意識して合唱する
言語	話す	話合いについていけないことがしばしばある	図工	折り紙の端を揃えて折る
		会話がやりとりにならず、一方的に話す		彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせ
		特定の音が不明瞭である		見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す
		助詞の誤りが目立つ話し方をする		ラジオ体操等、徒手体操
言語	読む	的確なことを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い	体育	かけっこ、リレー等の走の運動
		話題に偏りがあったり、筋道なく思いつくまま語を並べて話す		幅跳び、ゴム跳び、反復横跳び等の跳の運動
		促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み違える		登り棒、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動
		一字一字は読めるが、たどり読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い		縄跳び
言語	書く	行をとばしたり、語を付け加えたりして読む	社会性・行動	ボールの操作（投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等）
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む		スキップ動作
		文章の内容を把握できない		模倣の運動
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う		表現運動
図形・数等の力	図形	「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない	授業態度	ゲーム（鬼ごっこ、ドッジボール、ポートボール等）
		漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、鏡文字を書くことがある		席にじっと座ってられないことが目立つ
		ある程度まとまりのある文章が書けない		おしゃべりが非常に多い
		直線の平行や垂直の関係について理解する		雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい
図形・数等の力	数	図形（平行四辺形、台形、ひし形など）の特徴をつか	人間関係	新しいもの、難しそうなものだと「分からない、出来ない」と言って、学習や活動への取り掛かりが遅い
		立方体及び直方体の特徴をとらえ、見取り図や展開図を描く		黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い
		コンパス、三角定規などの器具を用いて、円や多角形を描く		ぼーっとしている時間が多くみられる
		～の上に（下に）～の右に（左に）～の前に（後ろに）などの空間を表すことばの意味が分かる		他児にちょっかいを出すことがとても多い
日常生活の力等	日常生活の力等	2位数同士の加法・減法計算を30秒程度の時間内でする	生活習慣	教師の注意をひこうとする振る舞いが多い
		くり上がりくり下がり忘れず、4位数までの加法・減法の筆算をする		質問に対して的外れな答えをすることが多い
		多操作計算問題を解く(例 8÷2-5×3)		手悪さをしばしばする
		億・兆の単位について知り、それらの数の大小や順序を理解する		相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い
日常生活の力等	日常生活の力等	乗法九九を暗唱し、整数の乗法及び除法の計算をする	生活習慣	他児へのタッチが強すぎたり、けんかが極端に多い
		小数の意味を知り、加法及び減法の計算をする		いつも独りでいて、友達と口をきくことはめったにない
		分数の意味を知り、同分母の分数の加法及び減法の計算をする		教師の問いかけに対して黙っていて答えようとしな
		四則の相互関係について理解する		教師からの働きかけに対して口ごたえが多い
日常生活の力等	日常生活の力等	変化する数量間の関係を表やグラフで表す	生活習慣	忘れ物が非常に多い
		文章題を読んで、立式する(加法・減法・乗法・除法)		遅刻が多い
		電話番号（市外局番を除く程度の桁数）の数字を記憶する		机の中、ロッカーの中がとても乱雑である
		時間概念を表すことば(きのう・今日・あした、去年・今年・来年、より早い・より遅いなど)の意味が分かる		偏食、過食、少食などが著しい
日常生活の力等	日常生活の力等	日常生活に必要な程度の時刻や時間を計算によって求める	生活習慣	物をよくなくしたり、壊したりする
		～から、まで、より(より)も、以上、以下、未満などの数の増減、時間、順序の基準になることばの意味が分かる		
		算数の用語・記号・求積の公式を理解する		

4 領域の内 1 領域に偏りのある類型

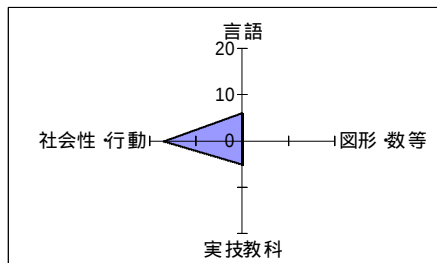
- 他と比べて《社会性・行動》に困難が多い -

< 例 > 中学 1 年生 男子

(1) 欠席等の日数

欠 席	遅 刻	早 退
28	2	8

(2) プロフィール



このタイプの児童生徒に共通して言えることは、言語と実技教科の項目にも、抽出基準は満たしていませんが、いくつか課題が指摘されていることです。また、中学生に多く見られます。自分の思いを言葉や体を使ってうまく伝えられないことが、対人関係等の社会性の課題につながっていると考えられます。教育相談等を通して、自己を客観視できる力を伸ばすとともに、基本的な対人関係のスキルをはぐくんでいく必要があると考えられます。

(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い
		指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い
		聞いたことがなかなか記憶できない
		相手の話を聞いていないことが多い
言語	話す	話合いについていけないことがしばしばある
		会話がやりとりにならず、一方的に話す
		特定の音が不明瞭である
		助詞の誤りが目立つ話し方をする
言語	読む	的確なことを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い
		話題に偏りがあったり、筋道なく思いのまま語を並べて話す
		促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み違える
		一字一字は読めるが、たどりで読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い
言語	書く	行をとばしたり、語を付け加えたりして読む
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む
		文章の内容を把握できない
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う
図形・数等の力	図形	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない
		「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない
		漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある
		ある程度のもままりのある文章が書けない
図形・数等の力	数	三角定規・コンパスなどの器具を用いて、図形（円、多角形、平行四辺形など）を作図する
		図形の合同、対称に関して理解する
		基本的な立体の特徴を理解する
		円周率の意味を理解し、計算に用いる
図形・数等の力	日常生活の数に関する力等	～の上に(下に)、～の右に(左に)、～の前に(後ろに)などの空間を表すことばの意味がわかる
		乗法九九を暗唱し、整数の乗法・除法の計算をする
		約数・倍数を理解する
		小数の乗法・除法計算をする
図形・数等の力	図形・数等の力	分数の乗法・除法計算をする
		2 位数 × (または ÷) 1 位数の暗算をする
		多操作計算問題を解く (例 $12 \times 3 - 45 \div 9$)
		一つの数を他の数の積や商としてみるなど、他の数と関係づける (例 3×4 が 12 であることは分かるのに、12 は 3 と何の積であるかわからない)
図形・数等の力	図形・数等の力	百分率を用いた計算をする
		変化する数量間の関係を表やグラフで表す
		文章題を読んで立式する (加法・減法・乗法・除法)
		電話番号 (市内局番を除く程度の桁数) の数字を記憶する
図形・数等の力	図形・数等の力	時間概念を表すことば (一週間前・同後、一昨日・明後日、一昨年・再来年、より早い、より遅いなど) の意味がわかる
		日常生活に必要な程度の、おおよその長さや重さや容積の推測をする
		～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間の経過や順序や比較の表現のためのことばを用いる
		数学の用語・記号・求積の公式を用いる

音楽	音楽	リコーダー等旋律楽器で学年相当の曲を演奏する
		リズムを伴って打楽器を演奏する
		曲想や気持ちを表現をしながら歌をうたう
		他のパートとの協調を意識して合唱する
美術	美術	集中して鑑賞する
		はさみやカッターナイフを使い、直線や曲線に沿って紙を切る
		紙の端を揃えて折ったり、畳んだり、物を包んだりする
		手指、掌等を十分働かせて、粘土などで造形する
実技教科	実技教科	彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う
		見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す
		ラジオ体操等、徒手体操
		リレー等の走の運動
体育	体育	幅跳び、高跳び、反復横跳び等の跳の運動
		マット、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動
		縄跳び
		ボールの操作 (投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等)
社会性・行動	社会性・行動	スキップ動作
		模倣の運動
		表現運動
		ゲーム (バスケット、バレー、サッカー等)
授業態度	授業態度	席にじっと座ってられないことが目立つ
		おしゃべりが非常に多い
		雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい
		学習活動への取り組みが遅い
人間関係	人間関係	黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い
		ぼーっとしている時がしばしば見られる
		他の生徒にちょっかいを出すことがとても多い
		授業と関係ないことに没頭することがしばしばある
生活習慣	生活習慣	質問に対して的外れな答えが多い
		手悪さをしばしばする
		相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い
		他の生徒へのタッチが強すぎたり、トラブルやけんかが極端に多い
生活習慣	生活習慣	教師の声掛けや働きかけに対して、過敏であったり攻撃的な反応をしめしたりすることが多い (逆に、答えようとしなかったり、消極的反応が多い)
		話題が偏っていたり、その場の流れに合わない応答が多い
		独りでいることが多く、友達と口をきくことも少ない
		忘れ物が非常に多い
生活習慣	生活習慣	他の生徒よりワンテンが遅れる行動が多い
		机やロッカーの中がとても乱雑で、物をなくすことや、壊してしまうことが多い
		身だしなみに極めて無頓着である
		偏食、過食、少食などが著しい

4 領域の内 2 領域に偏りのある類型

- 他と比べて《言語・図形・数等》に困難が多い -

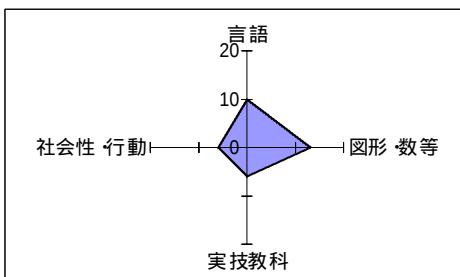
	小4	小5	小6	中1	中2	中3
				1		

<例> 中学1年生 女子

(1) 欠席等の日数

欠席	遅刻	早退
23	1	2

(2) プロフィール



言語と図形・数等に偏りが見られるタイプです。この生徒は不登校状態である上に、広範な発達の遅れも否定できません。

不登校状態にあることが教科学習の遅れにつながっているとも言えますし、発達の遅れが教科学習のつまずきの背景にあり、不登校になっているかもしれません。

生育歴を見直したり、教育相談等を通して、興味や関心のもてるものを詳しく探ったりして、何かに「自己有能感」をもてるよう支援していく必要があると考えられます。

(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い 指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い 聞いたことがなかなか記憶できない 相手の話を聞いていないことが多い 話合いについていけないことがしばしばある
	話す	会話がやりとりにならず、一方的に話す 特定の音が不明瞭である 助詞の誤りが目立つ話し方をする 的確なことを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い 話題に偏りがあったり、筋道なく思いのまま話を並べて話す
	読む	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み違える 一字一字は読めるが、たどり読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い 行をとばしたり、語を付け加えたりして読む 基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む 文章の内容を把握できない
	書く	基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う 促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない 「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない 漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある ある程度まとまりのある文章が書けない
図形・数等の力	図形	三角定規・コンパスなどの器具を用いて、図形(円、多角形、平行四辺形など)を作図する 図形の合同、対称に関して理解する 基本的な立体の特徴を理解する 円周率の意味を理解し、計算に用いる ～の上に(下に)、～の右に(左に)、～の前に(後ろに)などの空間を表すことばの意味が分かる
	数	乗法九九を暗唱し、整数の乗法・除法の計算をする 約数・倍数を理解する 小数の乗法・除法計算をする 分数の乗法・除法計算をする 2位数×(または÷)1位数の暗算をする 多操作計算問題を解く(例 $12 \times 3 - 45 \div 9$) 一つの数を他の数の積や商としてみるなど、他の数と関係づける(例 3×4 が12であることは分かるのに、12は3と何の積であるかがわからない) 百分率を用いた計算をする 変化する数量間の関係を表やグラフで表す 文章題を読んで立式する(加法・減法・乗法・除法)
	日常生活の数に関する力等	電話番号(市内局番を除く程度の桁数)の数字を記憶する 時間概念を表すことば(一週間前・同後、一昨日・明後日、一昨年・再来年、より早い、より遅いなど)の意味が分かる 日常生活に必要な程度の、おおよその長さや重さや容積の推測をする ～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間の経過や順序や比較の表現のためことばを用いる 数学の用語・記号・求積の公式を用いる

実技教科	音楽	リコーダー等旋律楽器で学年相当の曲を演奏する リズムを伴って打楽器を演奏する 曲想や気持ちを表現をしながら歌をうたう 他のパートとの協調を意識して合唱する 集中して鑑賞する
	美術	はさみやカッターナイフを使い、直線や曲線に沿って紙を切る 紙の端を揃えて折ったり、畳んだり、物を包んだりする 手指、掌等を十分働かせて、粘土などで造形する 彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う 見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す
	体育	ラジオ体操等、徒手体操 リレー等の走の運動 幅跳び、高跳び、反復横跳び等の跳の運動 マット、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動 縄跳び ボールの操作(投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等) スキップ動作 模倣の運動 表現運動 ゲーム(バスケット、バレー、サッカー等)
	社会性・人間関係	席にじっと座ってられないことが目立つ おしゃべりが非常に多い 雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい 学習活動への取り組みが遅い 黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い ぼーっとしている時がしばしば見られる 他の生徒にちょっかいを出すことがとても多い 授業と関係ないことに没頭することがしばしばある 質問に対して的外れな答えが多い 手悪さをしばしばする 相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い 他の生徒へのタッチが強すぎたり、トラブルやけんかが極端に多い 教師の声掛けや働きかけに対して、過敏であったり攻撃的な反応をしめしたりすることが多い(逆に、答えようとしなかったり、消極的反応が多い) 話題が偏っていたり、その場の流れに合わない応答が多い 独りでいることが多く、友達と口をきくことも少ない 忘れ物が非常に多い
生活習慣	生活習慣	他の生徒よりワンテンが遅れる行動が多い 机やロッカーの中がとても乱雑で、物をなくすことや、壊してしまうことが多い 身だしなみに極めて無頓着である 偏食、過食、少食などが著しい

4領域の内2領域に偏りのある類型

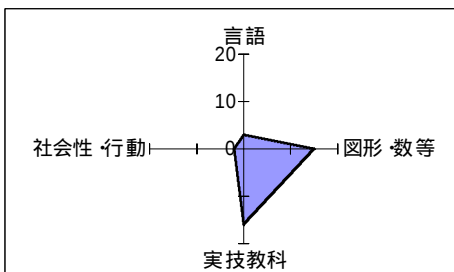
- 他と比べて《図形・数等、実技教科》に困難が多い -

<例> 中学3年生 男子

(1) 欠席等の日数

欠席	遅刻	早退
0	14	1

(2) プロフィール



(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い
		指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い
	話す	聞いたことがなかなか記憶できない
		相手の話を聞いていないことが多い
図形・数等の力	読む	話し合いについていけないことがしばしばある
		会話がやりとりにならず、一方的に話す
	書く	特定の音が不明瞭である
		助詞の誤りが目立つ話し方をする
図形・数等の力	図形	的確なことを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い
		話題に偏りがあったり、筋道なく思いつくまま語を並べて話す
	数	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み違える
		一字一字は読めるが、たどりで読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い
日常生活の数に関する力等	図形	行をとばしたり、語を付け加えたりして読む
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む
	数	文章の内容を把握できない
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う
図形・数等の力	図形	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない
		「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない
	数	漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある
		ある程度まとまりのある文章が書けない
日常生活の数に関する力等	図形	三角定規・コンパスなどの器具を用いて、図形(円、多角形、平行四辺形など)を作図する
		図形の合同、対称に関して理解する
	数	基本的な立体の特徴を理解する
		円周率の意味を理解し、計算に用いる
日常生活の数に関する力等	図形	～の上に(下に)、～の右に(左に)、～の前に(後ろに)などの空間を表すことばの意味が分かる
		乗法九九を暗唱し、整数の乗法・除法の計算をする
	数	約数・倍数を理解する
		小数の乗法・除法計算をする
日常生活の数に関する力等	図形	分数の乗法・除法計算をする
		2位数×(または÷)1位数の暗算をする
	数	多操作計算問題を解く(例 $12 \times 3 - 45 \div 9$)
		一つの数を他の数の積や商としてみるなど、他の数と関係づける(例 3×4 が12であることは分かるのに、12は3と何の積であるかわからない)
日常生活の数に関する力等	図形	百分率を用いた計算をする
		変化する数量間の関係を表やグラフで表す
	数	文章題を読んで立式する(加法・減法・乗法・除法)
		電話番号(市内局番を除く程度の桁数)の数字を記憶する
日常生活の数に関する力等	図形	時間概念を表すことば(一週間前・同後、一昨日・明後日、一昨年・再来年、より早い、より遅いなど)の意味が分かる
		日常生活に必要な程度の、おおよその長さや重さや容積の推測をする
	数	～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間の経過や順序や比較の表現のためのことばを用いる
		数学の用語・記号・求積の公式を用いる

図形・数等と実技教科の困難さをあわせ持ったタイプです。2領域の偏りでは、このタイプの児童生徒が最も多く、8名中6名が中学3年生です。このタイプでは、概して登校しぶりが目立ちますが、社会性・行動について抽出の基準ほど多くはないが、いくつかの指摘が見られる児童生徒は、欠席日数が多くなっています。

教育相談等を活用しながら、コミュニケーション能力を糸口にして、苦手でない教科学習に「自己有能感」がもてるよう支援していくことが必要と考えられます。

音楽	音楽	リコーダー等旋律楽器で学年相当の曲を演奏する
		リズムを伴って打楽器を演奏する
	美術	曲想や気持ちを表現をしながら歌をうたう
		他のパートとの協調を意識して合唱する
実技教科	美術	集中して鑑賞する
		はさみやカッターナイフを使い、直線や曲線に沿って紙を切る
	体育	紙の端を揃えて折ったり、畳んだり、物を包んだりする
		手指、掌等を十分働かせて、粘土などで造形する
社会性・人間関係	音楽	彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う
		見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す
	体育	ラジオ体操等、徒手体操
		リレー等の走の運動
社会性・人間関係	音楽	幅跳び、高跳び、反復横跳び等の跳の運動
		マット、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動
	体育	縄跳び
		ボールの操作(投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等)
社会性・人間関係	音楽	スキップ動作
		模倣の運動
	体育	表現運動
		ゲーム(バスケット、バレー、サッカー等)
社会性・人間関係	音楽	席にじっと座ってられないことが目立つ
		おしゃべりが非常に多い
	美術	雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい
		学習活動への取り掛かりが遅い
社会性・人間関係	音楽	黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い
		ぼーっとしている時がしばしば見られる
	美術	他の生徒にちょっかいを出すことがとても多い
		授業と関係ないことに没頭することがしばしばある
社会性・人間関係	音楽	質問に対して的外れな答えが多い
		手悪さをしばしばする
	美術	相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い
		他の生徒へのタッチが強すぎたり、トラブルやけんかが極端に多い
社会性・人間関係	音楽	教師の声掛けや働きかけに対して、過敏であったり攻撃的な反応をしめしたりすることが多い(逆に、答えようとしなかったり、消極的反応が多い)
		話題が偏っていたり、その場の流れに合わない応答が多い
	美術	独りでいることが多く、友達と口をきくことも少ない
		忘れ物が非常に多い
生活習慣	音楽	他の生徒よりワンテンが遅れる行動が多い
		机やロッカーの中がとても乱雑で、物をなくすことや、壊してしまうことが多い
	美術	身だしなみに極めて無頓着である
		偏食、過食、少食などが著しい

4 領域の内 2 領域に偏りのある類型

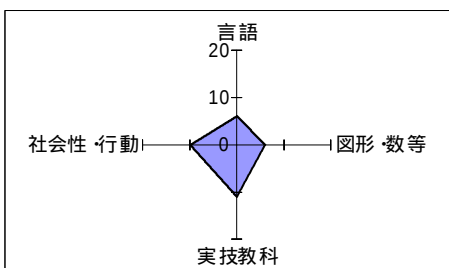
- 他と比べて《実技教科、社会性・行動》に困難が多い -

< 例 > 中学 1 年生 女子

(1) 欠席等の日数

欠 席	遅 刻	早 退
2 1	0	3

(2) プロフィール



実技教科と社会性・行動に偏りを示すタイプです。この生徒は、広範な発達の遅れもうかがえます。

この生徒は、体をバランスよくスムーズに動かすことにつまずきがあるようです。不登校状態のため、実技における適切な課題設定や配慮にも難しさがあります。「成就感」や「自己有能感」がもてるように教育相談等で他領域における興味や関心を知り、支援していくことが大切です。それと並行して、対人関係を改善していくことも必要です。

(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い	音楽	リコーダー等旋律楽器で学年相当の曲を演奏する	
		指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い		リズムを伴って打楽器を演奏する	
		聞いたことがなかなか記憶できない		曲想や気持ちを表現をしながら歌をうたう	
		相手の話を聞いていないことが多い		他のパートとの協調を意識して合唱する	
言語	話す	話合いについていけないことがしばしばある	美術	集中して鑑賞する	
		会話がやりとりにならず、一方的に話す		はさみやカッターナイフを使い、直線や曲線に沿って紙を切る	
		特定の音が不明瞭である		紙の端を揃えて折ったり、畳んだり、物を包んだりする	
		助詞の誤りが目立つ話し方をする		手指、掌等を十分働かせて、粘土などで造形する	
言語	読む	的確なことを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い	実技教科	彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う	
		話題に偏りがあったり、筋道なく思いのまま語を並べて話す		見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す	
		促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み違える		ラジオ体操等、徒手体操	
		一字一字は読めるが、たどりで読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い		リレー等の走の運動	
言語	書く	行をとばしたり、語を付け加えたりして読む	体育	幅跳び、高跳び、反復横跳び等の跳の運動	
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む		マット、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動	
		文章の内容を把握できない		縄跳び	
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う		ボールの操作（投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等）	
図形・数等の力	図形	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない	社会性・行動	スキップ動作	
		「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない		模倣の運動	
		漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある		表現運動	
		ある程度まとまりのある文章が書けない		ゲーム（バスケット、バレー、サッカー等）	
図形・数等の力	数	三角定規・コンパスなどの器具を用いて、図形（円、多角形、平行四辺形など）を作図する	授業態度	席にじっと座ってられないことが目立つ	
		図形の合同、対称に関して理解する		おしゃべりが非常に多い	
		基本的な立体の特徴を理解する		雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい	
		円周率の意味を理解し、計算に用いる		学習活動への取り組みが遅い	
図形・数等の力	日常生活の数に関する力等	～の上に(下に)、～の右に(左に)、～の前に(後ろに)などの空間を表すことばの意味が分かる	人間関係	黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い	
		乗法九九を暗唱し、整数の乗法・除法の計算をする		ぼーっとしている時がしばしば見られる	
		約数・倍数を理解する		他の生徒にちょっかいを出すことがとても多い	
		小数の乗法・除法計算をする		授業と関係ないことに没頭することがしばしばある	
図形・数等の力	日常生活の数に関する力等	分数の乗法・除法計算をする	生活習慣	質問に対して的外れな答えが多い	
		2 位数 × (または ÷) 1 位数の暗算をする		手悪さをしばしばする	
		多操作計算問題を解く（例 $12 \times 3 - 45 \div 9$ ）		相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い	
		一つの数を他の数の積や商としてみるなど、他の数と関係づける（例 3×4 が 12 であることは分かるのに、12 は 3 と何の積であるかがわからない）		他の生徒へのタッチが強すぎたり、トラブルやけんかが極端に多い	
図形・数等の力	日常生活の数に関する力等	百分率を用いた計算をする	生活習慣	教師の声掛けや働きかけに対して、過敏であったり攻撃的な反応をしめたりすることが多い(逆に、答えようとしなかったり、消極的反応が多い)	
		変化する数量間の関係を表やグラフで表す		話題が偏っていたり、その場の流れに合わない応答が多い	
		文章題を読んで立式する(加法・減法・乗法・除法)		独りでいることが多く、友達と口をきくことも少ない	
		電話番号（市内局番を除く程度の桁数）の数字を記憶する		忘れ物が非常に多い	
図形・数等の力	日常生活の数に関する力等	時間概念を表すことば（一週間前・同後、一昨日・明後日、一昨年・再来年、より早い、より遅いなど）の意味が分かる	生活習慣	他の生徒よりワンテンが遅れる行動が多い	
		日常生活に必要な程度の、おおよその長さや重さや容積の推測をする		机やロッカーの中がとても乱雑で、物をなくすことや、壊してしまうことが多い	
		～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間の経過や順序や比較の表現のためのことばを用いる		身だしなみに極めて無頓着である	
		数学の用語・記号・求積の公式を用いる		偏食、過食、少食などが著しい	

4 領域の内 2 領域に偏りのある類型

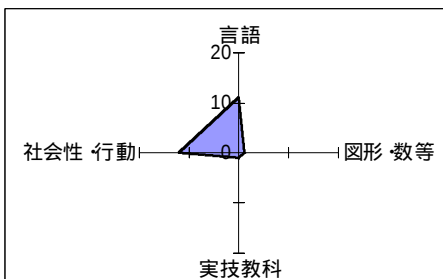
- 他と比べて《社会性・行動、言語》に困難が多い -

< 例 > 小学 5 年生 男子

(1) 欠席等の日数

欠 席	遅 刻	早 退
2 2	3	0

(2) プロフィール



言語と社会性・行動に偏りが見られるタイプです。この 2 名は、言語領域でも「聞く」能力の弱さが目立ちます。そのため、2 名とも対人関係よりも、授業場面における項目に指摘が多く見られます。この児童生徒には、「聞く」ことへの具体的な援助を行っていくためにも、教育相談等の活用が望まれます。また、その中で、意欲をもって取り組める実技領域を探りながら、並行して、そこで「自己有能感」がもてるよう支援していくことも必要だと考えられます。

(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い 指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い 聞いたことがなかなか記憶できない 相手の話を聞いていないことが多い 話し合いについていけないことがしばしばある
	話す	会話がやりとりにならず、一方的に話す 特定の音が不明瞭である 助詞の誤りが目立つ話し方をする 的確なことばを見つけれなかったり、詰まったりすることが多い 話題に偏りがあったり、筋道なく思いつくまま語を並べて話す
	読む	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み混える 一字一字は読めるが、たどり読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い 行をとばしたり、語を付け加えたりして読む 基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む文章の内容を把握できない
	書く	基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う 促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない 「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない 漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、鏡文字を書くことがある ある程度まとまりのある文章が書けない
図形・数等の力	図形	基本的な図形を用いて、作図や図形の構成をする 図形（二等辺三角形、正三角形など）の特徴をつかむ 円や球について、中心・直径及び半径を知る コンパスを用いて円を描く ～の上に（下に）～の右に（左に）～の前に（後ろに）などの空間を表すことばの意味が分かる 2 位数同士の加法・減法計算を30秒程度の時間内でする くり上がりくり下がり忘れず、4 位数までの加法・減法の筆算をする 多操作計算問題を解く(例 $8 \times 2 - 5 \times 3$) 万の単位について知り、それらの数の大小や順序を理解する 乗法九九を暗唱し、2 位数 $\times$ 3 位数で、正しい位取りで筆算をする 2 または 3 位数 $\div$ 1 位数で、正しい位取りで筆算をする 10 倍、100 倍、10 分の 1 などの大きさの数及びその表し方が分かる 簡単な小数、分数の意味を理解し、加法・減法の計算をする 棒グラフの読み方及び書き方を理解する 文章題を読んで、立式する(加法・減法・乗法)
	数	電話番号（市外局番を除く程度の桁数）の数字を記憶する 時間概念を表すことば(きのう・今日・あした、去年・今年・来年、より早い・より遅いなど)の意味が分かる 日常生活に必要な程度の時刻や時間を計算によって求める ～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間、順序の基準になることばの意味が分かる 「重さ」「面積」の単位が分かり、測定をする
	日常生活の力	
	日常生活の力	

実技教科	音楽	鍵盤ハーモニカ、リコーダー等で学年相当の曲を演奏する 鍵盤楽器を演奏する リズムを伴った打楽器の演奏ができる 身体表現をしながら歌をうたう 他のパートとの協調を意識して合唱する
	図工	はさみを使い、直線や曲線に沿って紙を切る 折り紙の端を揃えて折る 手指、掌等を十分働かせて、粘土で立体を作る 彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う 見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す
	体育	ラジオ体操等、徒手体操 かけっこ、リレー等の走の運動 幅跳び、ゴム跳び、反復横跳び等の跳の運動 登り棒、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動 縄跳び ボールの操作（投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等） スキップ動作 模倣の運動 表現運動 ゲーム（鬼ごっこ、ドッジボール、ポートボール等）
	社会性・行動	席にじっと座ってられないことが目立つ おしゃべりが非常に多い 雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい 新しいもの、難しそうなのだと「分からない、出来ない」と言って、学習や活動への取り掛かりが遅い 黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い ぼーっとしている時間が多くみられる 他児にちょっかいを出すことがとても多い 教師の注意をひこうとする振る舞いが多い 質問に対して的外れな答えをすることが多い 手悪さをしばしばする 相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い 他児へのタッチが強すぎたり、けんかが極端に多い いつも独りでいて、友達と口をきくことはめったにない 教師の問いかけに対して黙っていて答えようとしらない 教師からの働きかけに対して口ごたえが多い 忘れ物が非常に多い 遅刻が多い 机の中、ロッカーの中がとても乱雑である 偏食、過食、少食などが著しい 物をよくなくしたり、壊したりする

4 領域の内 2 領域に偏りのある類型

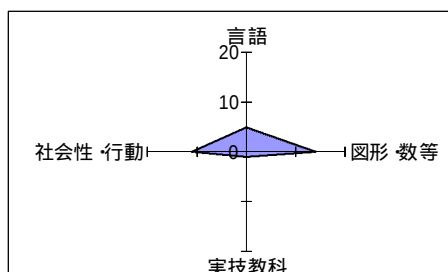
- 他と比べて《図形・数等・社会性・行動》に困難が多い -

< 例 > 中学 3 年生 男子

(1) 欠席等の日数

欠 席	遅 刻	早 退
0	8 8	0

(2) プロフィール



図形・数等と社会性・行動に偏りを示すタイプです。このタイプの 2 名は、ともに中学生で、欠席日数よりも遅刻が目立ちます。このタイプは、教科学習における困難が、授業場面での不適応を進行させ、不登校につながっていくことも危惧されます。

教育相談等を生かし、「成就感」や「自己有能感」をもてるように、苦手ではない実技教科を中心に興味や関心をもてるものを知り、それを支援していく中で、学校への適応を促していく必要があると考えられます。

(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い
		指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い
		聞いたことがなかなか記憶できない
		相手の話を聞いていないことが多い
言語	話す	話合いについていけないことがしばしばある
		会話がやりとりにならず、一方的に話す
		特定の音が不明瞭である
		助詞の誤りが目立つ話し方をする
言語	読む	的確なことを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い
		話題に偏りがあったり、筋道なく思いのまま語を並べて話す
		促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み違える
		一字一字は読めるが、たどりで読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い
図形・数等の力	書く	行をとばしたり、語を付け加えたりして読む
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む
		文章の内容を把握できない
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う
図形・数等の力	図形	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない
		「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない
		漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある
		ある程度のもままりのある文章が書けない
図形・数等の力	数	三角定規・コンパスなどの器具を用いて、図形（円、多角形、平行四辺形など）を作図する
		図形の合同、対称に関して理解する
		基本的な立体の特徴を理解する
		円周率の意味を理解し、計算に用いる
図形・数等の力	日常生活の数に関する力等	～の上に(下に)、～の右に(左に)、～の前に(後ろに)などの空間を表すことばの意味がわかる
		乗法九九を暗唱し、整数の乗法・除法の計算をする
		約数・倍数を理解する
		小数の乗法・除法計算をする
図形・数等の力	図形・数等の力	分数の乗法・除法計算をする
		2 位数 × (または ÷) 1 位数の暗算をする
		多操作計算問題を解く (例 $12 \times 3 - 45 \div 9$)
		一つの数を他の数の積や商としてみるなど、他の数と関係づける (例 3×4 が 12 であることは分かるのに、12 は 3 と何の積であるかわからない)
図形・数等の力	図形・数等の力	百分率を用いた計算をする
		変化する数量間の関係を表やグラフで表す
		文章題を読んで立式する (加法・減法・乗法・除法)
		電話番号 (市内局番を除く程度の桁数) の数字を記憶する
図形・数等の力	図形・数等の力	時間概念を表すことば (一週間前・同後、一昨日・明後日、一昨年・再来年、より早い、より遅いなど) の意味がわかる
		日常生活に必要な程度の、おおよその長さや重さや容積の推測をする
		～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間の経過や順序や比較の表現のためのことばを用いる
		数学の用語・記号・求積の公式を用いる

音楽	音楽	リコーダー等旋律楽器で学年相当の曲を演奏する
		リズムを伴って打楽器を演奏する
		曲想や気持ちを表現をしながら歌をうたう
		他のパートとの協調を意識して合唱する
美術	美術	集中して鑑賞する
		はさみやカッターナイフを使い、直線や曲線に沿って紙を切る
		紙の端を揃えて折ったり、畳んだり、物を包んだりする
		手指、掌等を十分働かせて、粘土などで造形する
実技教科	実技教科	彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う
		見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す
		ラジオ体操等、徒手体操
		リレー等の走の運動
体育	体育	幅跳び、高跳び、反復横跳び等の跳の運動
		マット、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動
		縄跳び
		ボールの操作 (投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等)
社会性・行動	社会性・行動	スキップ動作
		模倣の運動
		表現運動
		ゲーム (バスケット、バレー、サッカー等)
授業態度	授業態度	席にじっと座ってられないことが目立つ
		おしゃべりが非常に多い
		雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい
		学習活動への取り掛かりが遅い
人間関係	人間関係	黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い
		ぼーっとしている時がしばしば見られる
		他の生徒にちょっかひを出すことがとても多い
		授業と関係ないことに没頭することがしばしばある
生活習慣	生活習慣	質問に対して的外れな答えが多い
		手悪さをしばしばする
		相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い
		他の生徒へのタッチが強すぎたり、トラブルやけんかが極端に多い
生活習慣	生活習慣	教師の声掛けや働きかけに対して、過敏であったり攻撃的な反応をしめたりすることが多い (逆に、答えようとしなかったり、消極的反応が多い)
		話題が偏っていたり、その場の流れに合わない応答が多い
		独りでいることが多く、友達と口をきくことも少ない
		忘れ物が非常に多い
生活習慣	生活習慣	他の生徒よりワンテンが遅れる行動が多い
		机やロッカーの中がとても乱雑で、物をなくすことや、壊してしまうことが多い
		身だしなみに極めて無頓着である
		偏食、過食、少食などが著しい

4 領域の内 3 領域に偏りのある類型

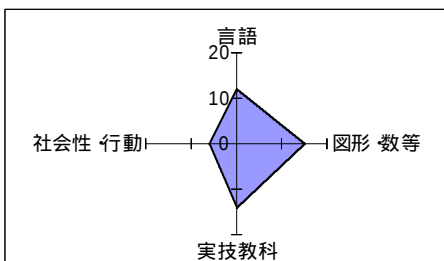
- 他と比べて《言語・図形・数等・実技教科》に困難が多い -

< 例 > 中学 1 年生 男子

(1) 欠席等の日数

欠 席	遅 刻	早 退
2 2	0	0

(2) プロフィール



言語と図形・数等と実技教科に偏りを示すタイプです。この生徒は、不登校状態にあり、また、全般的な発達の遅れも疑われます。不登校が教科学習の困難につながったのか、教科学習の困難が不登校を引き起こしたかは明らかではありません。しかし、自分を表現していく言語や実技教科において弱さが見られることから、今後さらに人間関係のつまずきも進んでいくことも考えられます。生育歴等を見直したり、教育相談等を活用し、自分を表現できる機会や場に配慮する必要があると考えられます。

(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い 指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い 聞いたことがなかなか記憶できない 相手の話を聞いていないことが多い 話合いについていけないことがしばしばある
	話す	会話がやりとりにならず、一方的に話す 特定の音が不明瞭である 助詞の誤りが目立つ話し方をする 的確なことを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い 話題に偏りがあったり、筋道なく思いのまま語を並べて話す
	読む	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み違える 一字一字は読めるが、たどりで読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い 行をとばしたり、語を付け加えたりして読む 基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む 文章の内容を把握できない
	書く	基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う 促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない 「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない 漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある ある程度のもままりのある文章が書けない
図形・数等の力	図形	三角定規・コンパスなどの器具を用いて、図形（円、多角形、平行四辺形など）を作図する 図形の合同、対称に関して理解する 基本的な立体の特徴を理解する 円周率の意味を理解し、計算に用いる ～の上に(下に)、～の右に(左に)、～の前に(後ろに)などの空間を表すことばの意味が分かる
	数	乗法九九を暗唱し、整数の乗法・除法の計算をする 約数・倍数を理解する 小数の乗法・除法計算をする 分数の乗法・除法計算をする 2 位数 × (または ÷) 1 位数の暗算をする 多操作計算問題を解く (例 $12 \times 3 - 45 \div 9$) 一つの数を他の数の積や商としてみるなど、他の数と関係づける (例 3×4 が 12 であることは分かるのに、12 は 3 と何の積であるかわからない) 百分率を用いた計算をする 変化する数量間の関係を表やグラフで表す 文章題を読んで立式する (加法・減法・乗法・除法)
	日常生活の数に関する力等	電話番号 (市内局番を除く程度の桁数) の数字を記憶する 時間概念を表すことば (一週間前・同後、一昨日・明後日、一昨年・再来年、より早い、より遅いなど) の意味が分かる 日常生活に必要な程度の、おおよその長さや重さや容積の推測をする ～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間の経過や順序や比較の表現のためのことばを用いる 数学の用語・記号・求積の公式を用いる

実技教科	音楽	リコーダー等旋律楽器で学年相当の曲を演奏する リズムを伴って打楽器を演奏する 曲想や気持ちを表現をしながら歌をうたう 他のパートとの協調を意識して合唱する 集中して鑑賞する
	美術	はさみやカッターナイフを使い、直線や曲線に沿って紙を切る 紙の端を揃えて折ったり、畳んだり、物を包んだりする 手指、掌等を十分働かせて、粘土などで造形する 彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う 見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す
	体育	ラジオ体操等、徒手体操 リレー等の走の運動 幅跳び、高跳び、反復横跳び等の跳の運動 マット、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動 縄跳び ボールの操作 (投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等) スキップ動作 模倣の運動 表現運動 ゲーム (バスケット、バレー、サッカー等)
社会性・人間関係	授業態度	席にじっと座ってられないことが目立つ おしゃべりが非常に多い 雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい 学習活動への取り組みが遅い 黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い ぼーっとしている時がしばしば見られる 他の生徒にちょっかいを出すことがとても多い 授業と関係ないことに没頭することがしばしばある 質問に対して的外れな答えが多い 手悪さをしばしばする
	人間関係	相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い 他の生徒へのタッチが強すぎたり、トラブルやけんかが極端に多い 教師の声掛けや働きかけに対して、過敏であったり攻撃的な反応をしめたりすることが多い (逆に、答えようとしなかったり、消極的反応が多い) 話題が偏っていたり、その場の流れに合わない応答が多い 独りでいることが多く、友達と口をきくことも少ない
	生活習慣	忘れ物が非常に多い 他の生徒よりワンテンが遅れる行動が多い 机やロッカーの中がとても乱雑で、物をなくすことや、壊してしまうことが多い 身だしなみに極めて無頓着である 偏食、過食、少食などが著しい

4領域の内3領域に偏りのある類型

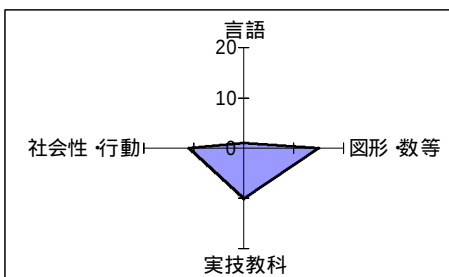
- 他と比べて《図形・数等、実技教科、社会性・行動》に困難が多い -

<例> 中学2年生 男子

(1) 欠席等の日数

欠席	遅刻	早退
10	65	1

(2) プロフィール



実技教科と図形・数等と社会性・行動に偏りが見られるタイプです。例に示す生徒は遅刻が65日と非常に多く、他の1名は、欠席日数が68日の不登校状態にあります。

教育相談等を活用し、誰かが信頼できる他者として寄り添っていくことが大切と考えられます。課題の指摘項目の少ない言語領域を糸口に、コミュニケーション能力を促し、人間関係を深めていく中で、基本的な対人関係のスキルを改善していけると考えられます。

(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い
		指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い
		聞いたことがなかなか記憶できない
		相手の話を聞いていないことが多い
言語	話す	話合いについていけないことがしばしばある
		会話がやりとりにならず、一方的に話す
		特定の音が不明瞭である
		助詞の誤りが目立つ話し方をする
言語	読む	的確なことを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い
		話題に偏りがあったり、筋道なく思いつくまま語を並べて話す
		促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み間違える
		一字一字は読めるが、たどりで読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い
言語	書く	行をとばしたり、語を付け加えたりして読む
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む
		文章の内容を把握できない
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う
図形・数等の力	図形	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない
		「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない
		漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある
		ある程度のまとまりのある文章が書けない
図形・数等の力	数	三角定規・コンパスなどの器具を用いて、図形(円、多角形、平行四辺形など)を作図する
		図形の合同、対称に関して理解する
		基本的な立体の特徴を理解する
		円周率の意味を理解し、計算に用いる
図形・数等の力	日常生活の数に関する力等	～の上に(下に)、～の右に(左に)、～の前に(後ろに)などの空間を表すことばの意味が分かる
		乗法九九を暗唱し、整数の乗法・除法の計算をする
		約数・倍数を理解する
		小数の乗法・除法計算をする
図形・数等の力	図形・数等の力	分数の乗法・除法計算をする
		2位数×(または÷)1位数の暗算をする
		多操作計算問題を解く(例 $12 \times 3 - 45 \div 9$)
		一つの数を他の数の積や商としてみるなど、他の数と関係づける(例 3×4 が12であることは分かるのに、12は3と何の積であるかわからない)
図形・数等の力	図形・数等の力	百分率を用いた計算をする
		変化する数量間の関係を表やグラフで表す
		文章題を読んで立式する(加法・減法・乗法・除法)
		電話番号(市内局番を除く程度の桁数)の数字を記憶する
図形・数等の力	図形・数等の力	時間概念を表すことば(一週間前・同後、一昨日・明日、一昨年・再来年、より早い、より遅いなど)の意味が分かる
		日常生活に必要な程度の、おおよその長さや重さや容積の推測をする
		～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間の経過や順序や比較の表現のためことばを用いる
		数学の用語・記号・求積の公式を用いる

音楽	音楽	リコーダー等旋律楽器で学年相当の曲を演奏する
		リズムを伴って打楽器を演奏する
		曲想や気持ちを表現をしながら歌をうたう
		他のパートとの協調を意識して合唱する
美術	美術	集中して鑑賞する
		はさみやカッターナイフを使い、直線や曲線に沿って紙を切る
		紙の端を揃えて折ったり、畳んだり、物を包んだりする
		手指、掌等を十分働かせて、粘土などで造形する
実技教科	実技教科	彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う
		見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す
		ラジオ体操等、徒手体操
		リレー等の走の運動
体育	体育	幅跳び、高跳び、反復横跳び等の跳の運動
		マット、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動
		縄跳び
		ボールの操作(投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等)
社会性・行動	社会性・行動	スキップ動作
		模倣の運動
		表現運動
		ゲーム(バスケット、バレー、サッカー等)
授業態度	授業態度	席にじっと座ってられないことが目立つ
		おしゃべりが非常に多い
		雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい
		学習活動への取り組みが遅い
人間関係	人間関係	黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い
		ぼーっとしている時がしばしば見られる
		他の生徒にちょっかひを出すことがとても多い
		授業と関係ないことに没頭することがしばしばある
生活習慣	生活習慣	質問に対して的外れな答えが多い
		手悪さをしばしばする
		相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い
		他の生徒へのタッチが強すぎたり、トラブルやけんかが極端に多い
生活習慣	生活習慣	教師の声掛けや働きかけに対して、過敏であったり攻撃的な反応をしめたりすることが多い(逆に、答えようとしなかったり、消極的反応が多い)
		話題が偏っていたり、その場の流れに合わない回答が多い
		独りであることが多く、友達と口をきくことも少ない
		忘れ物が非常に多い
生活習慣	生活習慣	他の生徒よりワンテンが遅れる行動が多い
		机やロッカーの中がとても乱雑で、物をなくすことや、壊してしまうことが多い
		身だしなみに極めて無頓着である
		偏食、過食、少食などが著しい

4領域の内3領域に偏りのある類型

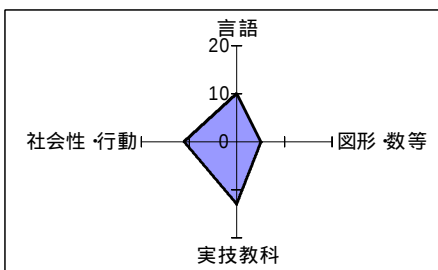
- 他と比べて《実技教科、社会性・行動、言語》に困難が多い -

<例> 小学6年生 男子

(1) 欠席等の日数

欠 席	遅 刻	早 退
4 8	2 5	7

(2) プロフィール



言語と実技教科と社会性・行動に偏りを示すタイプです。この児童の不登校状態はかなり深刻です。この児童は、自分をうまく表現するために必要なコミュニケーション能力や、実技教科における表現活動の弱さが、対人関係や授業場面におけるつまずきにつながっていると考えられます。そして、それがさらに不登校につながっていることも推測されます。のびのびできるような活動を通して、基本的な対人関係をもつ力を援助していくことが必要と考えられます。

(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い 指示内容が複数の場合、まごついたたり周りを見て行動することが多い 聞いたことがなかなか記憶できない 相手の話を聞いていないことが多い 話し合いについていけないことがしばしばある	実技教科	音楽	鍵盤ハーモニカ、リコーダー等で学年相当の曲を演奏する 鍵盤楽器を演奏する リズムを伴った打楽器の演奏ができる 身体表現をしながら歌をうたう 他のパートとの協調を意識して合唱する
	話す	会話がやりとりにならず、一方的に話す 特定の音が不明瞭である 助詞の誤りが目立つ話し方をする 的確なことを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い 話題に偏りがあったり、筋道なく思いつくまま話を並べて話す		図工	はさみを使い、直線や曲線に沿って紙を切る 折り紙の端を揃えて折る 手指、掌等を十分働かせて、粘土で立体を作る 彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う 見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す
	読む	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み間違える 一字一字は読めるが、たどり読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い 行をとばしたり、語を付け加えたりして読む 基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む文章の内容を把握できない		体育	ラジオ体操等、徒手体操 かけっこ、リレー等の走の運動 幅跳び、ゴム跳び、反復横跳び等の跳の運動 登り棒、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動 縄跳び ボールの操作（投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等） スキップ動作 模倣の運動 表現運動 ゲーム（鬼ごっこ、ドッジボール、ボートボール等）
	書く	基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う 促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない 「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない 漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、鏡文字を書くことがある ある程度のもままりのある文章が書けない		授業態度	席にじっと座ってられないことが目立つ おしゃべりが非常に多い 雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい 新しいもの、難しそうなものだと「分からない、出来ない」と言って、学習や活動への取り組みが遅い 黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い ぼーっとしている時間が多くみられる 他児にちょっかいを出すことがとても多い 教師の注意をひこうとする振る舞いが多い 質問に対して的外れな答えをすることが多い 手悪さをしばしばする
図形・数等の力	図形	直線の平行や垂直の関係について理解する 図形（平行四辺形、台形、ひし形など）の特徴をつか 立方体及び直方体の特徴をとらえ、見取り図や展開図を描く コンパス、三角定規などの器具を用いて、円や多角形を描く ～の上に（下に）～の右に（左に）～の前に（後ろに）などの空間を表すことばの意味が分かる	社会性・行動	人間関係	相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い 他児へのタッチが強すぎたり、けんかが極端に多い いつも独りでいて、友達と口をきくことはめったにない 教師の問いかけに対して黙っていて答えようとし 教師からの働きかけに対して口ごたえが多い
	数	2位数同士の加法・減法計算を30秒程度の時間内でする くり上がりくり下がり忘れず、4位数までの加法・減法の筆算をする 多操作計算問題を解く(例 $8 \div 2 - 5 \times 3$) 億・兆の単位について知り、それらの数の大小や順序を理解する 乗法九九を暗唱し、整数の乗法及び除法の計算をする 小数の意味を知り、加法及び減法の計算をする 分数の意味を知り、同分母の分数の加法及び減法の計算をする 四則の相互関係について理解する 変化する数量間の関係を表やグラフで表す 文章題を読んで、立式する(加法・減法・乗法・除法)		生活習慣	忘れ物が非常に多い 遅刻が多い 机の中、ロッカーの中がとても乱雑である 偏食、過食、少食などが著しい 物をよくなくしたり、壊したりする
	日常生活の数に関する力等	電話番号（市外局番を除く程度の桁数）の数字を記憶する 時間概念を表すことば(きのう・今日・あした、去年・今年・来年、より早い・より遅いなど)の意味が分かる 日常生活に必要な程度の時刻や時間を計算によって求める ～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間、順序の基準になることばの意味が分かる 算数の用語・記号・求積の公式を理解する			

4 領域の内 3 領域に偏りのある類型

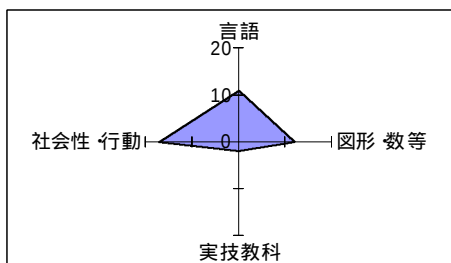
- 他と比べて《社会性・行動、言語、図形・数等》に困難が多い -

< 例 > 中学 1 年生 男子

(1) 欠席等の日数

欠 席	遅 刻	早 退
20	17	7

(2) プロフィール



社会性・行動と言語と図形・数等に偏りが見られるタイプで、この生徒は不登校状態にあります。

コミュニケーション能力や実技教科以外での学習の弱さが、対人関係や授業場面でのつまずきにつながっていることが推測できます。また、それが不登校のきっかけの一つになっていることも考えられます。苦手でない実技教科では「自己有能感」をもちやすいことに配慮し、教育相談等を活用して、興味や関心のもてるものを見いだしたり、意欲を育てたりすることが必要と考えられます。

(3) 指摘されている項目

言語	聞く	場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い	音楽	リコーダー等旋律楽器で学年相当の曲を演奏する	
		指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い		リズムを伴って打楽器を演奏する	
		聞いたことがなかなか記憶できない		曲想や気持ちを表現をしながら歌をうたう	
		相手の話を聞いていないことが多い		他のパートとの協調を意識して合唱する	
言語	話す	話合いについていけないことがしばしばある	美術	集中して鑑賞する	
		会話がやりとりにならず、一方的に話す		はさみやカッターナイフを使い、直線や曲線に沿って紙を切る	
		特定の音が不明瞭である		紙の端を揃えて折ったり、畳んだり、物を包んだりする	
		助詞の誤りが目立つ話し方をする		手指、掌等を十分働かせて、粘土などで造形する	
言語	読む	的確なことを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い	実技教科	彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う	
		話題に偏りがあったり、筋道なく思いのまま語を並べて話す		見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す	
		促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み間違える		ラジオ体操等、徒手体操	
		一字一字は読めるが、たど読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い		リレー等の走の運動	
図形・数等の力	書く	行をとばしたり、語を付け加えたりして読む	体育	幅跳び、高跳び、反復横跳び等の跳の運動	
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む		マット、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動	
		文章の内容を把握できない		縄跳び	
		基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う		ボールの操作（投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等）	
図形・数等の力	図形	促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない	社会性・人間関係	スキップ動作	
		「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない		模倣の運動	
		漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある		表現運動	
		ある程度まとまりのある文章が書けない		ゲーム（バスケット、バレー、サッカー等）	
図形・数等の力	数	三角定規・コンパスなどの器具を用いて、図形（円、多角形、平行四辺形など）を作図する	授業態度	席にじっと座ってられないことが目立つ	
		図形の合同、対称に関して理解する		おしゃべりが非常に多い	
		基本的な立体の特徴を理解する		雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい	
		円周率の意味を理解し、計算に用いる		学習活動への取り組みが遅い	
図形・数等の力	日常生活の数に関する力等	～の上に(下に)、～の右に(左に)、～の前に(後ろに)などの空間を表すことばの意味がわかる	生活習慣	黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い	
		乗法九九を暗唱し、整数の乗法・除法の計算をする		ぼーっとしている時がしばしば見られる	
		約数・倍数を理解する		他の生徒にちょっかいを出すことがとても多い	
		小数の乗法・除法計算をする		授業と関係ないことに没頭することがしばしばある	
図形・数等の力	図形・数等の力	分数の乗法・除法計算をする	人間関係	質問に対して的外れな答えが多い	
		2 位数 × (または ÷) 1 位数の暗算をする		手悪さをしばしばする	
		多操作計算問題を解く（例 $12 \times 3 - 45 \div 9$ ）		相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い	
		一つの数を他の数の積や商としてみるなど、他の数と関係づける（例 3×4 が 12 であることは分かるのに、12 は 3 と何の積であるかわからない）		他の生徒へのタッチが強すぎたり、トラブルやけんかが極端に多い	
図形・数等の力	図形・数等の力	百分率を用いた計算をする	生活習慣	教師の声掛けや働きかけに対して、過敏であったり攻撃的な反応をしめしたりすることが多い(逆に、答えようとしなかったり、消極的反応が多い)	
		変化する数量間の関係を表やグラフで表す		話題が偏っていたり、その場の流れに合わない応答が多い	
		文章題を読んで立式する(加法・減法・乗法・除法)		独りでいることが多く、友達と口をきくことも少ない	
		電話番号（市内局番を除く程度の桁数）の数字を記憶する		忘れ物が非常に多い	
図形・数等の力	図形・数等の力	時間概念を表すことば（一週間前・同後、一昨日・明後日、一昨年・再来年、より早い、より遅いなど）の意味がわかる	生活習慣	他の生徒よりワンテンが遅れる行動が多い	
		日常生活に必要な程度の、おおよその長さや重さや容積の推測をする		机やロッカーの中がとても乱雑で、物をなくすことや、壊してしまうことが多い	
		～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間の経過や順序や比較の表現のためのことばを用いる		身だしなみに極めて無頓着である	
		数学の用語・記号・求積の公式を用いる		偏食、過食、少食などが著しい	

3 分野別指摘率の特徴と項目別指摘率の特徴

困難の偏りの様々な類型を見だし、援助の方向性を考察してきました。次に抽出された児童生徒群が示す困難の傾向について、学習や社会性の各分野・項目ごとの指摘率として算出し、小学生・中学生それぞれをグラフに表し、その特徴を示しました。次ページ以下に、(1)分野別指摘率の特徴と(2)項目別指摘率の特徴としてまとめています。

分野別指摘率と項目別指摘率の算出方法

分野別指摘率

$$\frac{\text{その分野で困難が指摘される児童生徒の延べ指摘数}}{\text{その分野の総指摘数（全員が全項目で困難だとした場合の指摘数）}} \times 100$$

例 小学生 「話す」の分野別指摘率

「話す」分野での児童の延べ指摘数 = 1 + 0 + 4 + 2 + … = 30 …………… (A)

「話す」分野の総指摘数 = 5 (「話す」分野の項目数) × 11 (抽出児童数) = 55 (B)

↓

$$\frac{A}{B} \times 100 = \frac{30}{55} \times 100 = 55.5$$

↓

この調査で抽出された小学生は、全体として55.5%の率で「話す」ことに困難を示す傾向があることを表す。

項目別指摘率

$$\frac{\text{ある項目で困難があると指摘された児童生徒の人数}}{\text{抽出児童生徒数}} \times 100$$

例 小学生 音楽「鍵盤ハーモニカ、リコーダー等で学年相当曲の演奏」の項目別指摘率

指摘された人数 = 5名… (A)

抽出児童数 = 11名… (B)

↓

$$\frac{A}{B} \times 100 = \frac{5}{11} \times 100 = 45.5$$

↓

この調査で「鍵盤ハーモニカ、リコーダー等で学年相当の曲を演奏」に困難を示す児童は、抽出された小学生のうち45.5%を占めることを表す。

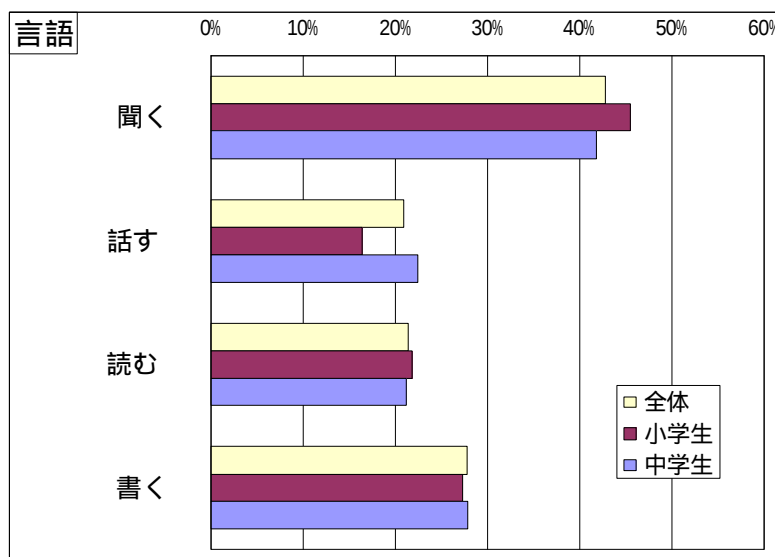
(1) 分野別指摘率の特徴

ア 今年度の特徴

(ア) 言語

「聞く・話す・読む・書く」の言語の4分野で小・中学生全体の指摘率〔図(1) - 1〕を見ると、「聞く」が43%で最も高くなっています。続いて「書く」が28%、「話す」と「読む」がともに21%となっています。

小学生と中学生の指摘率を比較してみると、「聞く」が小学生46%中学生42%でともに他の3分野と比べて、かなり高くなっています。「話す」は、小学生が16%と言語の中で最も低い指摘率を示し、中学生の22%とやや開きがあります。「読む」は、小学生22%中学生21%、「書く」は、小学生27%中学生28%とほぼ同じ指摘率です。

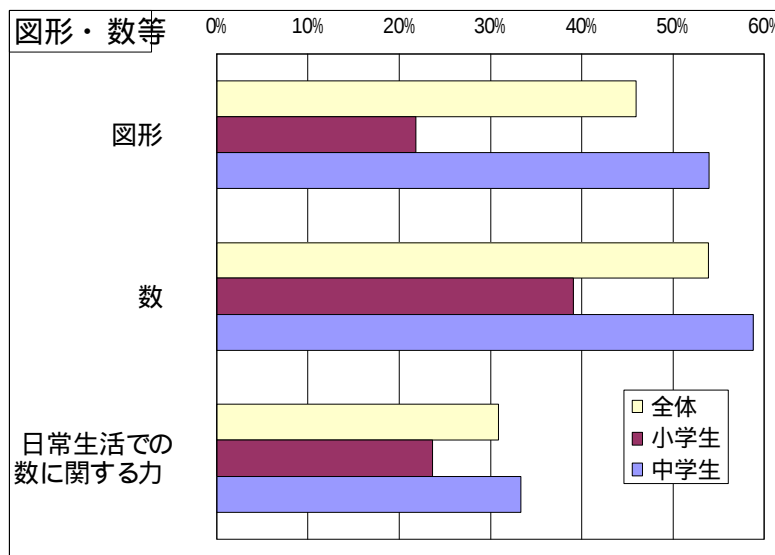


図(1) - 1

(イ) 図形・数・日常生活での数に関する力等

小・中学生全体で見ると、3分野とも高い指摘率を示しています〔図(1) - 2〕。中でも「数」が54%「図形」が46%と非常に高く、「日常生活での数に関する力等」は31%となっています。この特徴は、中学生の指摘率の高さによります。

次に、小学生と中学生を比較してみると、3分野とも指摘率に大きな開きがあります。具体的にあげてみると、中学生では「図形」54%「数」59%で、困難を示す傾向が非常に高く、「日常生活での数に関する力等」は33%とやや低くなっています。小学生では「図形」22%「数」39%「日常生活での数に関する力等」



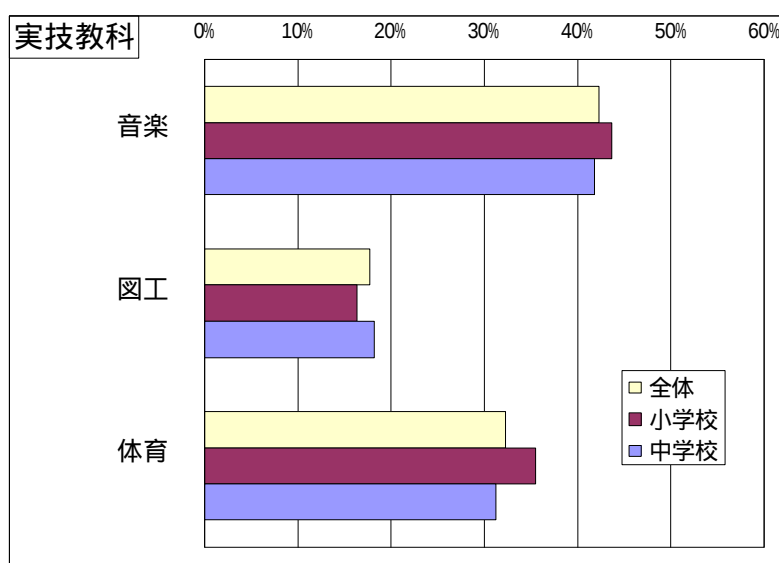
図(1) - 2

24%と、中学生に比べてかなり低くとどまっています。小・中学生ともに指摘率が最も高いのは、「数」でしたが、低いのは小学生では「図形」、中学生では「日常生活での数に関する力等」でした。

(ウ) 実技教科

「音楽・図工・体育」の実技教科について小・中学生全体でみると、3分野のうち「音楽」42 %、続いて「体育」32 %です。「図工」が18 %と著しく低いのが特徴的です。〔図(1) - 3〕

小学生、中学生を分けて見た場合、小学生、中学生ともほぼ同じ傾向を示しています。「図工」に比べて、「音楽」と「体育」で特に困難を示す傾向が高くなっています。各分野の指摘率は、「音楽」は小学生44 % 中学生42 %、「体育」は小学生36 % 中学生31 %で、「図工」は小学生16 % 中学生18 %です。

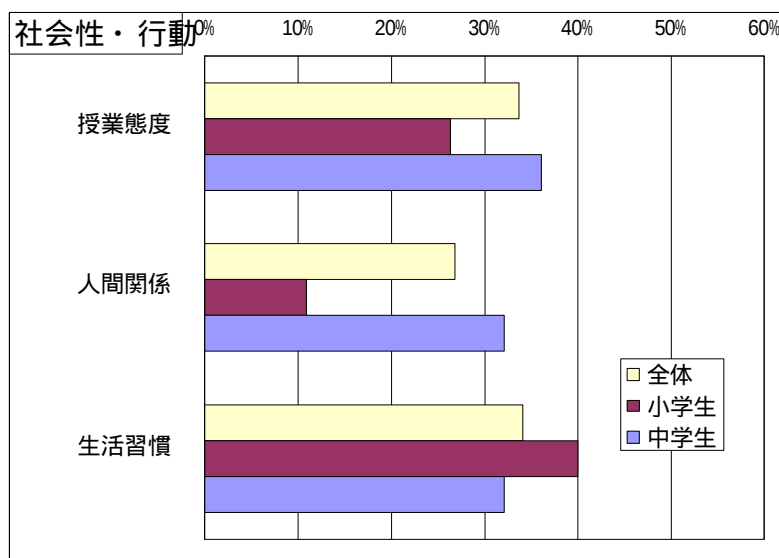


図(1) - 3

(I) 社会性・行動

「授業場面における学習態度・クラスメートや教師との人間関係・生活習慣」において特徴的なことは、小学生と中学生では、3分野ともはっきりと差が見られることです。特に「クラスメートや教師との人間関係」については、中学生では小学生に比べ、困難であると指摘される傾向が高くなっています。「生活習慣」では逆に中学生で低くなります。

小・中学生全体で見ると、「授業場面における学習態度」34 % 「生活習慣」34 %と高く、「クラスメートや教師との人間関係」が27 %で比較的低くなっています〔図(1) - 4〕。これは小学生の指摘率が低いためだと考えられます。



図(1) - 4

小学生、中学生を分けて見た場合、中学生は「授業場面における学習態度」36 % 「クラスメートや教師との人間関係」32 % 「生活習慣」32 %と3分野とも高くなっています。小学生の場合、少し異なります。「クラスメートや教師との人間関係」の指摘率が11 %で非常に低く、「生活習慣」が40 %と高くなっています。「授業場面における学習態度」は26 %です。

イ 平成8年度の調査との比較

平成10年度（以下今回と表記）の調査における小学生の指摘率と、平成8年度（同じく前回）の調査結果をグラフにしてみました。

前回の調査対象は、通常の学級（通級による指導をうける児童を含む）で学習に困難を示す児童のうち、その困難に偏りのある児童を表し、今回の調査は不登校等を示す児童のうち、その困難に偏りのある児童を表します。

今回と前回の結果を、言語・図形・数・日常生活での数に関する力等、実技教科、社会性・行動についてそれぞれ比較しました。その結果をまとめると、次のようになります。

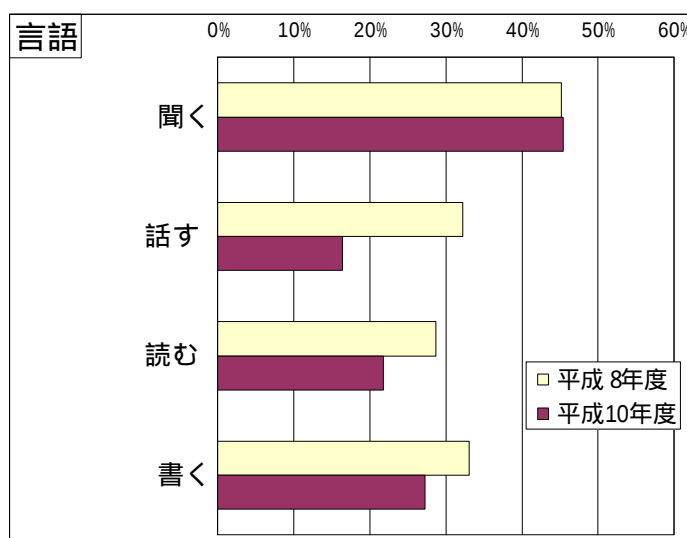
- 全体的に見ると、前回の方が高い指摘率
- 今回が前回は逆転して上回るのは、実技教科の「体育」と社会性・行動の「生活習慣」
- 今回が前回は大きく下回るのは、「話す」「図形」「日常生活での数に関する力等」「図工」

以下各領域毎に比較してみました。

(ア) 言語

前回・今回とも困難を示す傾向が最も高いのは「聞く」で、2回とも45%に上ります〔図(1) - 5〕。

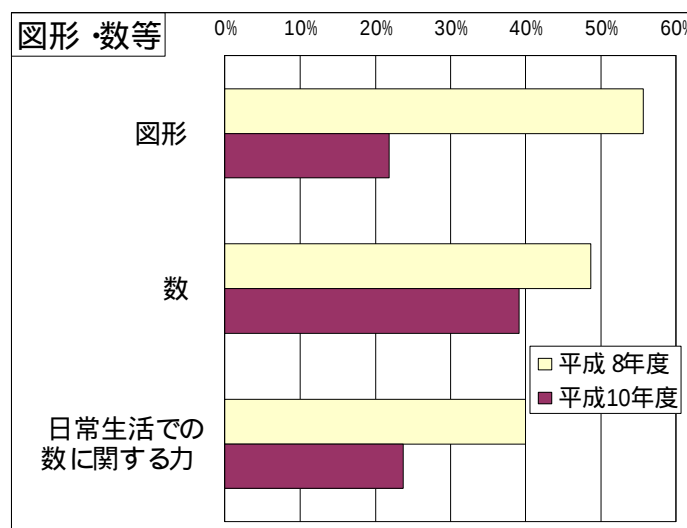
前回の「話す」「読む」「書く」についての結果は、「聞く」ほど高くはありませんが、いずれも30%前後を示し、今回の結果と大きな開きを見せています。特に「話す」については前回32%、今回16%と差が目立ちます。



図(1) - 5

(イ) 図形・数・日常生活での数に関する力等

前回の調査では、「図形」56%「数」49%「日常生活での数に関する力等」40%を示し、今回は「図形」22%「数」39%「日常生活での数に関する力等」24%の指摘率です〔図(1) - 6〕。いずれも前回が非常に高くなっています。特に「図形」での指摘率に大きな開きがあり、続いて「日常生活での数に関する力等」「数」の順になっています。

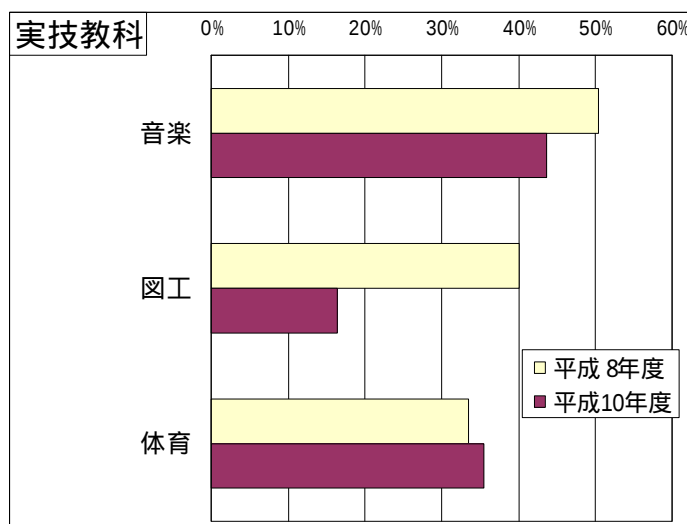


図(1) - 6

(ウ) 実技教科

前回の調査では、「音楽」50 % 「図工」40 % 「体育」33 % と高い指摘率を示しています。

今回は「音楽」44 % 「図工」16 % 「体育」35 % とばらつきがあります〔図(1) - 7〕。特に「図工」の結果では、前回と今回に開きが目立ちます。「音楽」も「図工」ほどではありませんが、開きがあります。「図工」「音楽」とも、今回の方が困難を示す傾向が低くなっています。「体育」については、今回の方がわずかに高くなっています。



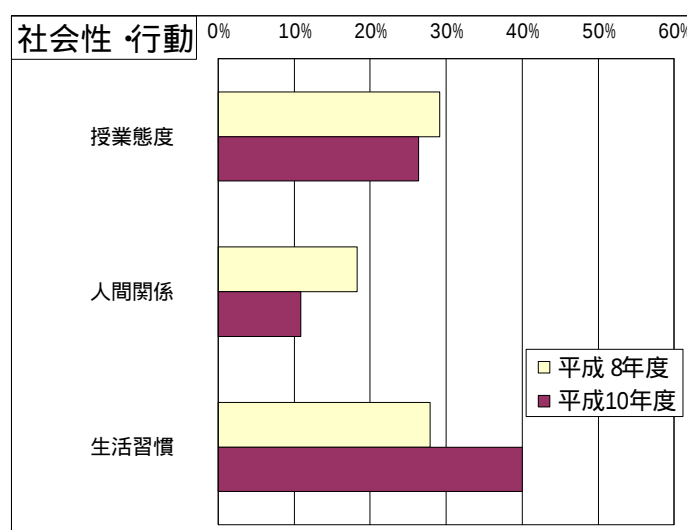
図(1) - 7

(I) 社会性・行動

社会性・行動の3分野で顕著なことは、「クラスメートや教師との人間関係」の指摘率が、前回、今回ともに低いことです。今回の調査で、すでに中学生との開きが大いことは述べましたが〔図(1) - 2〕、前回の調査と比べても今回が低くなっています。

また「生活習慣」について、今回の調査では40 % と非常に高い値を示し、前回の28 % を大きく上回っています。この様に前回よりも今回の指摘率が大きく上回ったのは「生活習慣」のみでした〔図(1) - 8〕。

前回の調査結果は、「クラスメートや教師との人間関係」が18 % で低く、「授業中の学習態度」29 % は「生活習慣」28 % とほぼ同じでした。また、今回の調査結果は、「授業中の学習態度」26 % 「クラスメートや教師との人間関係」11 % 「生活習慣」40 % となっています。



図(1) - 8

(2) 項目別指摘率の特徴

*この(2)の文章で、印を付けた用語については、第4章 研究のまとめと今後の課題の P.32 に説明をまとめて掲載しています。

ア 言語

(ア) 聞く (図(2) - 1、(2) - 2)

指摘率が最も高い項目は、小学生では「話し合いについていけないことがしばしばある」(73%)、中学生では「相手の話を聞いていないことが多い」(55%)です。

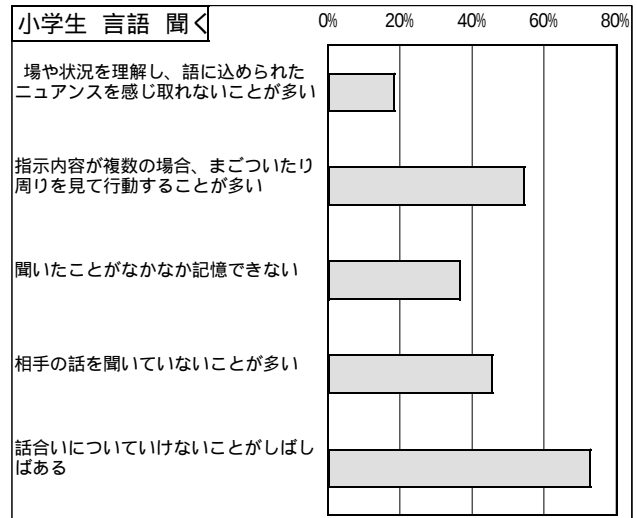
「話し合いについていけないことがしばしばある」は、中学生も49%で2番目に多く、これらは、聴覚的な認知の弱さによるか、欠席が多いために話し合いに参加できないからと考えられます。

また、「指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い」も半数以上の児童が指摘されています。

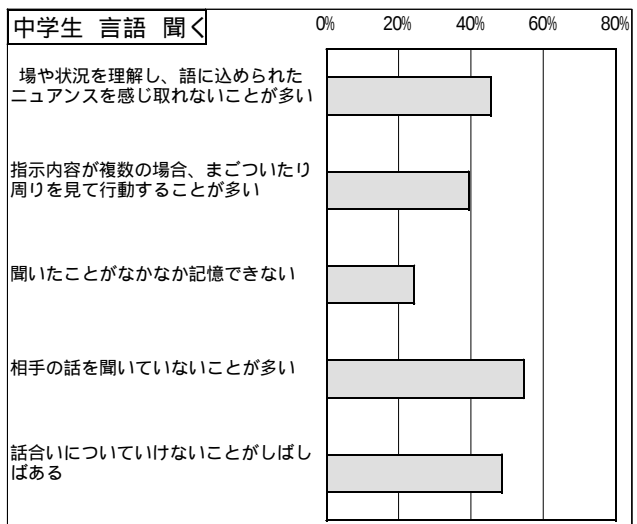
(イ) 話す (図(2) - 3、(2) - 4)

小学生の指摘率はこの分野では全般に低く、高くても27%であるのに比べて、中学生が「的確なことばを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い」(36%)「話題に偏りがあったり、筋道なく思いつくまま語を並べて話す」(42%)の2項目が高くなっています。

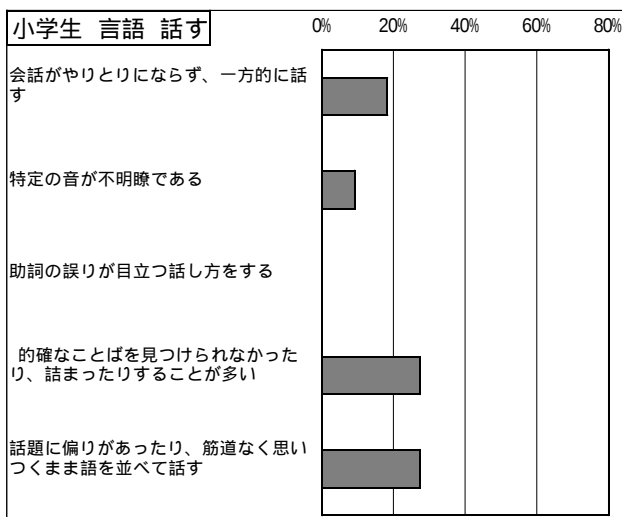
「助詞の誤りが目立つ話し方をする」は、小学生には見られないのに、中学生には6%と少ないですが見られます。



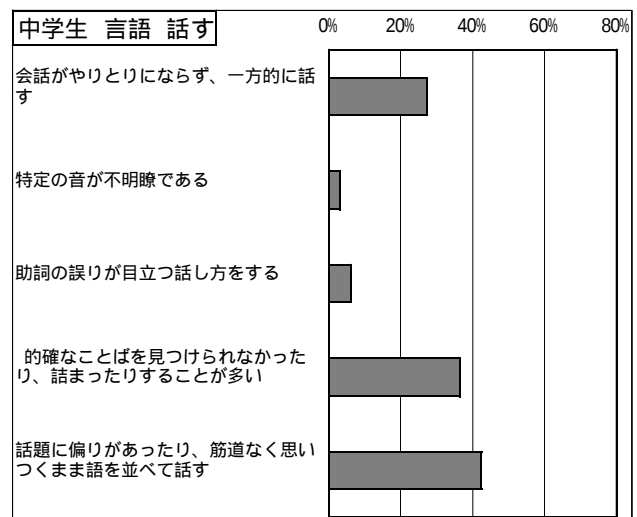
図(2) - 1



図(2) - 2



図(2) - 3

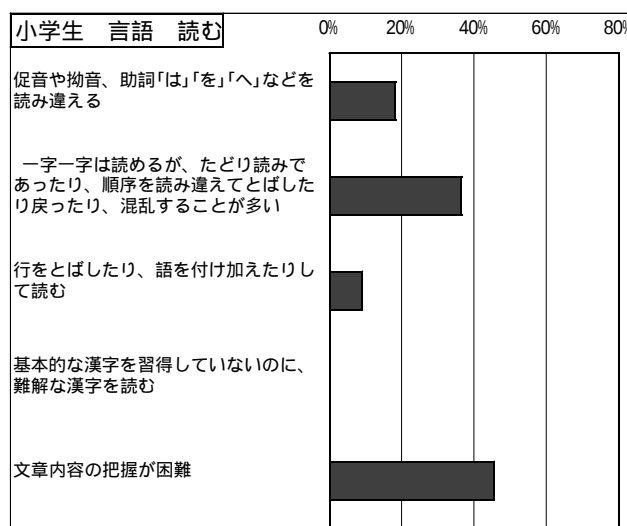


図(2) - 4

(ウ) 読む (図(2) - 5、(2) - 6)

「文章の内容を把握できない」は、多数が困難を指摘されていますが(小学生45%、中学生52%)、文章内容の把握は、言語に関する様々な力の総合を必要とするから、と考えられます。

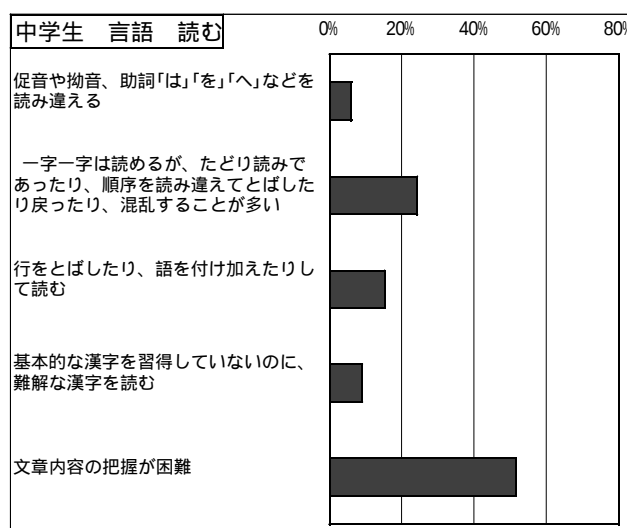
小学生も中学生も、「一字一字は読めるが、たどり読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い」の項目が、指摘率はそれほど高くはありません(小学生36%、中学生24%)が、どちらも2番目に多い項目です。LDに見られる視覚認知の弱さが背景にあるかもしれません。



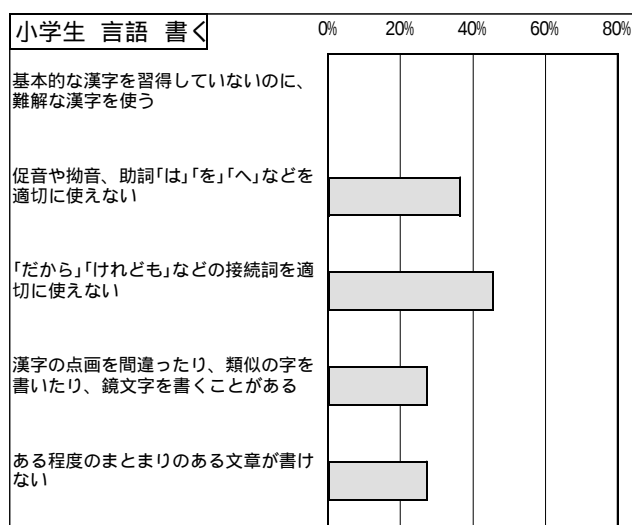
図(2) - 5

(I) 書く (図(2) - 7、(2) - 8)

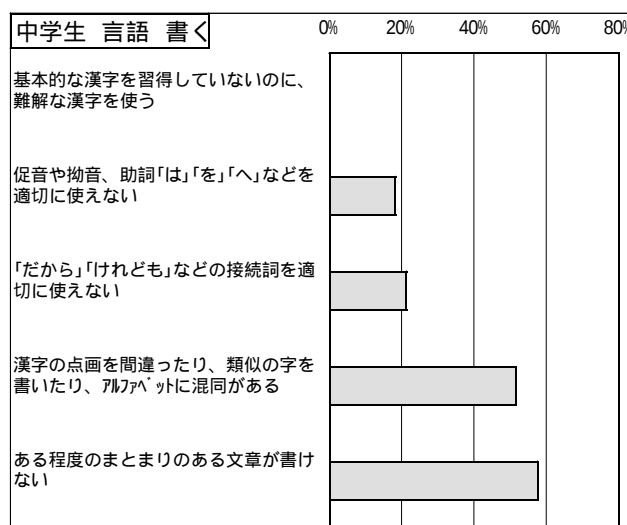
小学生では、「促音や拗音、助詞『は』『を』『へ』などを適切に使えない」(36%)「『だから』『けれども』などの接続詞を適切に使えない」(45%)の2項目が比較的高くなっています。それに比べて、中学生では「漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある」(52%)「ある程度まとまりのある文章が書けない」(58%)が高いのが特徴です。聴覚や視覚認知面での困難がこれらの特徴に影響している可能性もうかがわれます。



図(2) - 6



図(2) - 7



図(2) - 8

イ 図形・数・日常生活での数に関する力等（図(2) - 9、(2) - 10、(2) - 11）

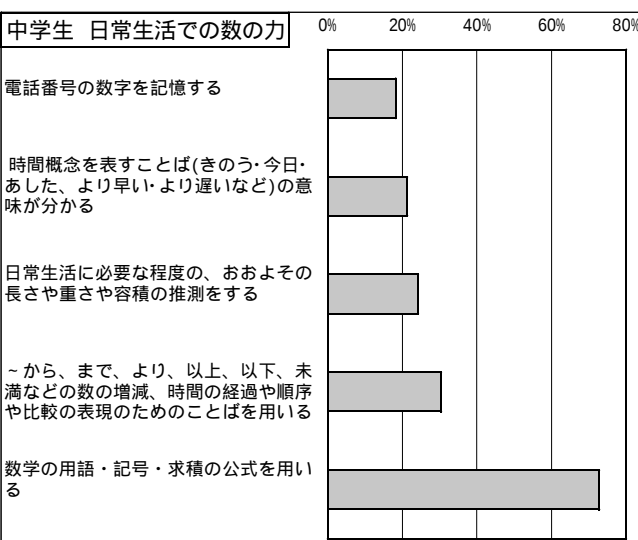
* 図形・数・日常生活での数に関する力等については調査項目を学年別に作成しています。抽出数が小学5年生6名、同6年生5名で、学年別に特徴を分析するには少なすぎるので、この分野の小学生の指摘率は算出せず、グラフも作成していません。

中学生は、この分野全 20 項目のうち、「百分率を用いた計算をする」「文章題を読んで立式する」等をはじめ、13 項目で 50 %から 70 %台の高い指摘率です。中でも、次の6項目は 65 %以上です。（「円周率の意味理解と計算」(67 %)「小数の乗法・除法計算」(70 %)「分数の乗法・除法計算」(67 %)「多操作計算問題」(67 %)「変化する数量間の関係の表やグラフで表現」(67 %)「数学の用語・記号・求積の公式の使用」(73 %)）

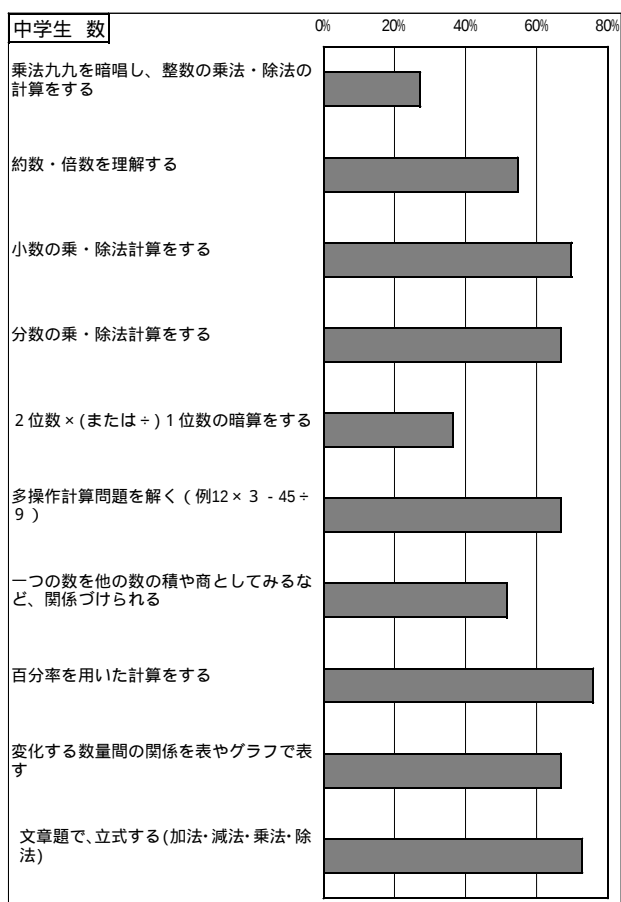
これらは、日常生活よりもむしろ授業で学習し習得する項目です。LD的な空間認知や推論などの面での弱さが学習でのつまずきの背景にあり、不登校等につながったかもしれません。また、不登校等による学習空白が、学習困難を増加させているとも言えます。

日常生活での数に関する力等の項目では、「数学の用語・記号・求積の公式の使用」を除いて、指摘率が比較的低くなっていますが、これは生活の中で学習が補われているからではないかと考えられます。日常生活で比較的使うことの多い「空間を表すことば」「乗法九九」「2 位数 $\times$ ($\div$) 1 位数の暗算」の3項目が比較的低いのも同じ理由によるものと考えられます。

いずれにせよ、この分野の特徴は、早期からの対応だけでなく、LD的な特徴に配慮した援助・指導が必要なことを強く示唆しています。



図(2) - 11



図(2) - 10

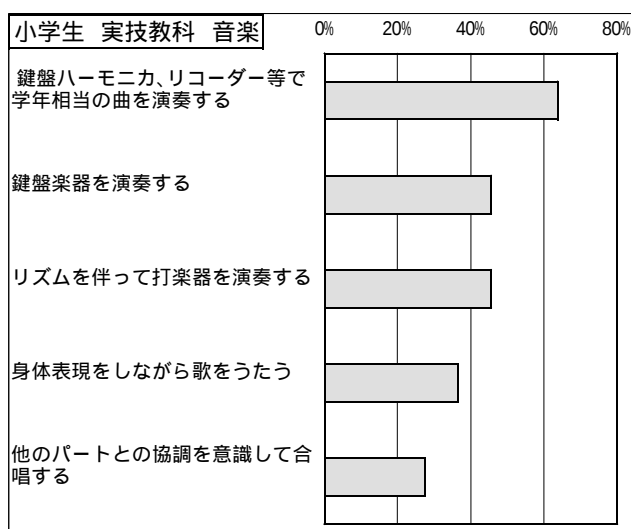
ウ 実技教科

(ア) 音楽 (図(2) - 12、(2) - 13)

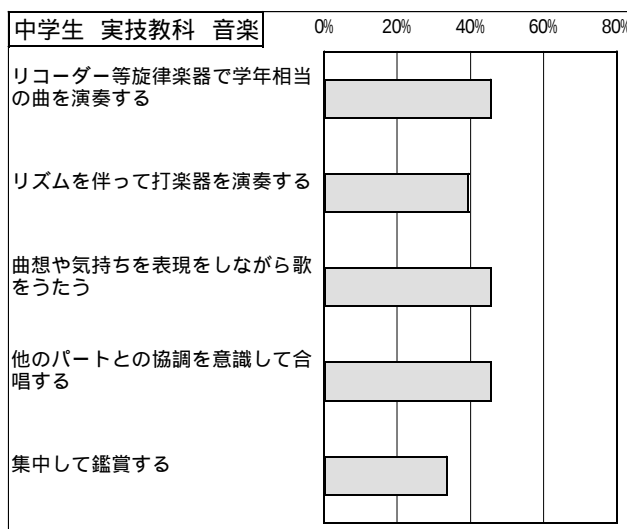
中学生は、全 5 項目が 30 % から 40 % 台で目立った特徴がありませんが、小学生では、「鍵盤ハーモニカ、リコーダー等で学年相当の曲を演奏する」が 64 % もあるのが目立ちます。欠席による学習空白の影響がはっきり現れていることがうかがえます。

演奏、合唱や合奏等この分野の項目は、「表現」や「協調性」等社会性の一面に強く関係しています。その弱さが、不登校等の児童生徒の「社会的、情緒的に未熟」などの性格傾向によるのか、LD 的な背景をもつものなのか、より詳しい分析が必要です。

京都府総合教育センター教育資料 昭和 63 年度第 3 号「学校教育相談の手引 - 登校拒否の予防と援助・指導 - 」P.14



図(2) - 12

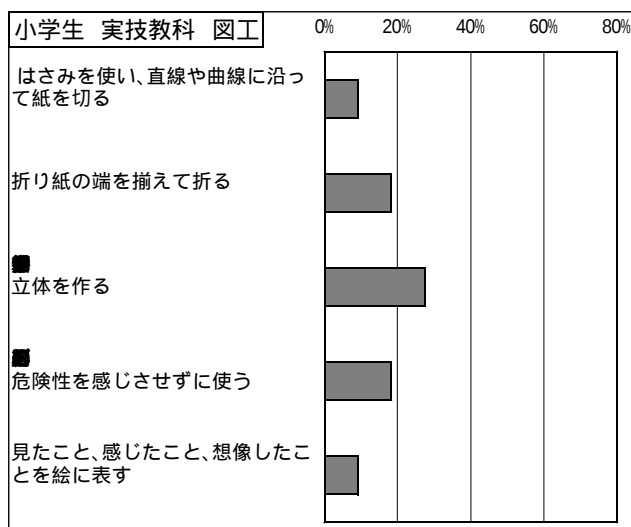


図(2) - 13

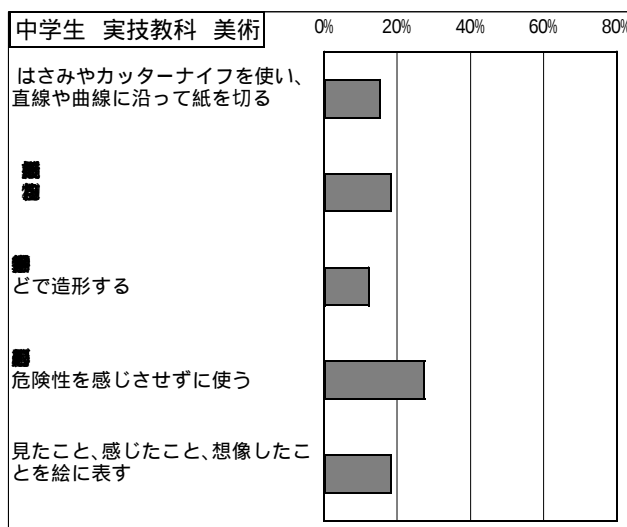
(イ) 図工・美術 (図(2) - 14、(2) - 15)

図工・美術は、小学生も中学生も指摘率は比較的低くあまり顕著な特徴は見られません。小学生では、「手指、掌等を十分働かせて、粘土で立体を作る」が最も高く(27%)、中学生では、「彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う」が同じく最も高く27%です。

「折り紙」「はさみの使用」などの「手先の器用さ」に関係する他の項目を含めて、表現力の弱さの背景の考察については、音楽と同様に、不登校等の児童生徒の性格傾向やLD 的背景について精査が必要です。



図(2) - 14



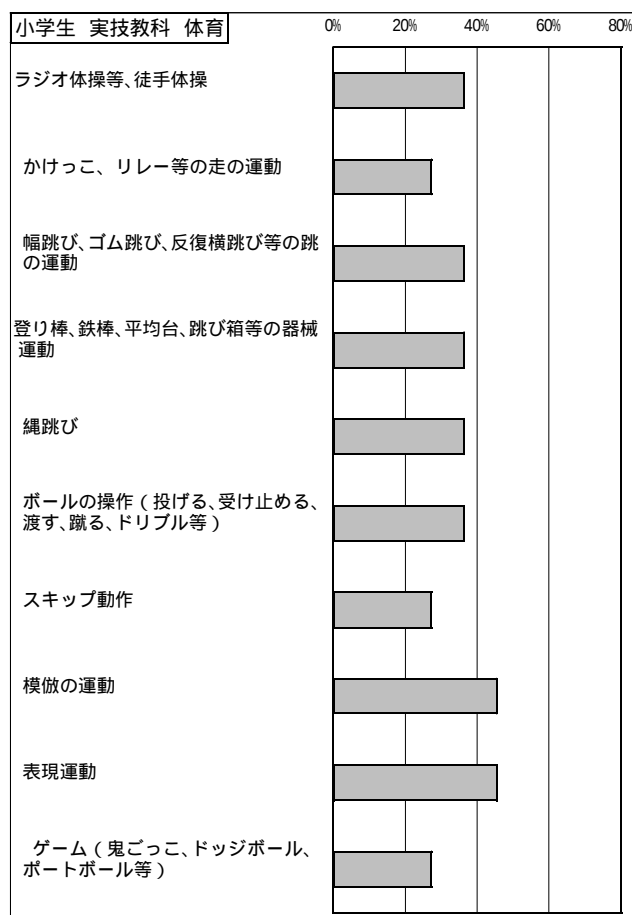
図(2) - 15

(ウ) 体育 (図(2) - 16、(2) - 17)

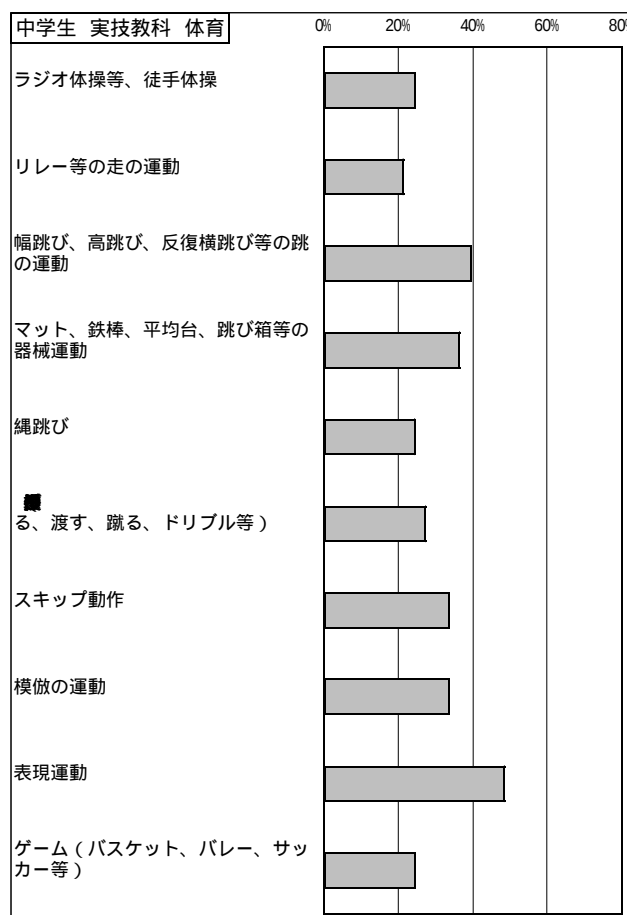
体育では、小学生で「模倣の運動」「表現運動」が 45 %で高い指摘率ですが、他項目は20から30 %台にとどまります。

中学生では少しばらつきが見られ、「表現運動」が49%で比較的高いのを除くと、他は20から30 %台ですが、「走の運動」よりも、「跳の運動」「器械運動」や「スキップ動作」「模倣の運動」など協調運動的な身のこなしを要するものが高くなっています。

「表現運動」の高い指摘率についても、音楽、図工、美術と同様に、「表現力」の背景について詳しく調べてみる必要があります。



図(2) - 16

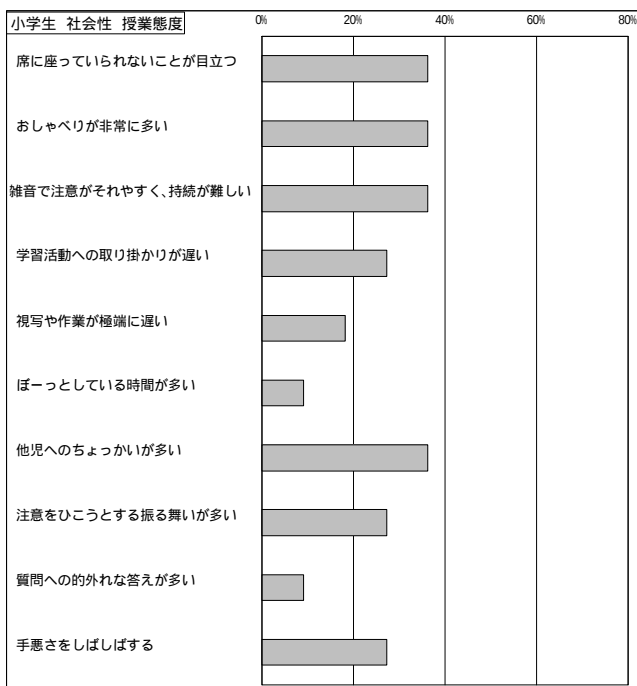


図(2) - 17

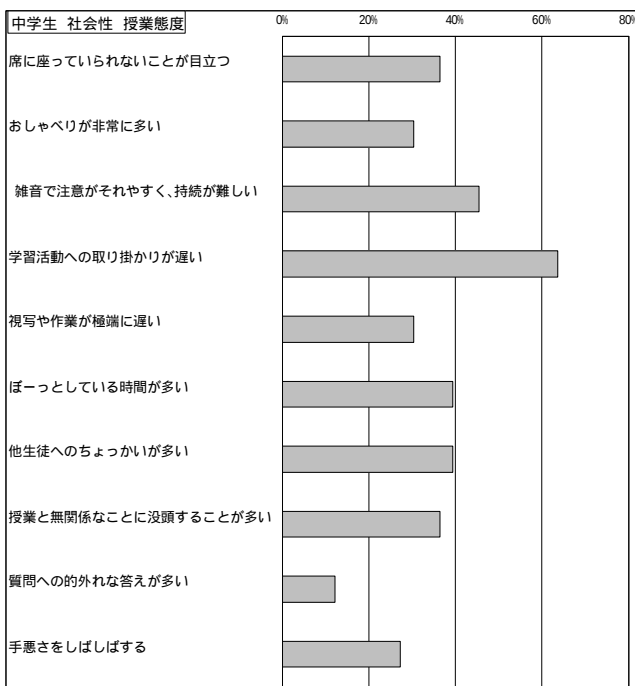
エ 社会性・行動 (図(2) - 18 ~ (2) - 23)

小学生では、50 %を超える項目がなく、指摘率の高い項目が「机の中、ロッカーの中がとても乱雑である」「偏食、過食、少食などが著しい」「物をよくなくしたり、壊したりする」(3項目とも 45 %)で生活習慣の3項目に集中しています。

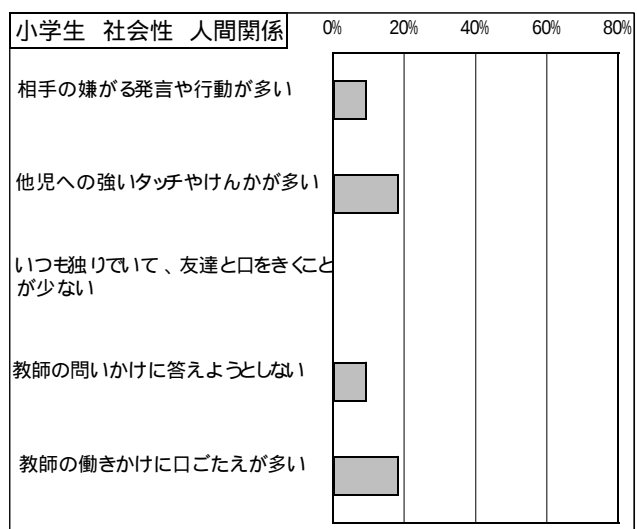
それに比べて、中学生では 50 %以上の項目として、授業態度の「学習活動への取り掛かりが遅い」(64 %)、生活習慣の「忘れ物が非常に多い」(55 %)が見られ、人間関係の「教師の声掛けや働きかけに対して、過敏であったり攻撃的な反応をしめしたりすることが多い(逆に、答えようとしなかったり、消極的反応が多い)」も 49 %あります。認知面でのつまずきを背景として、生活年齢が高くなるとともに二次的な課題も重なっている生徒が多いのではないかと考えられます。



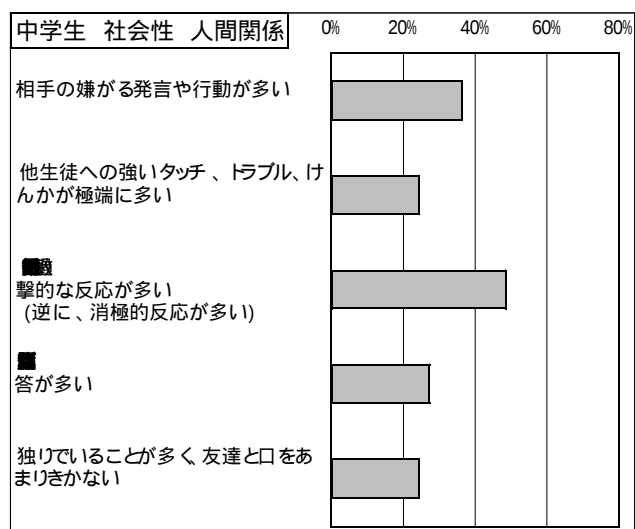
図(2) - 18



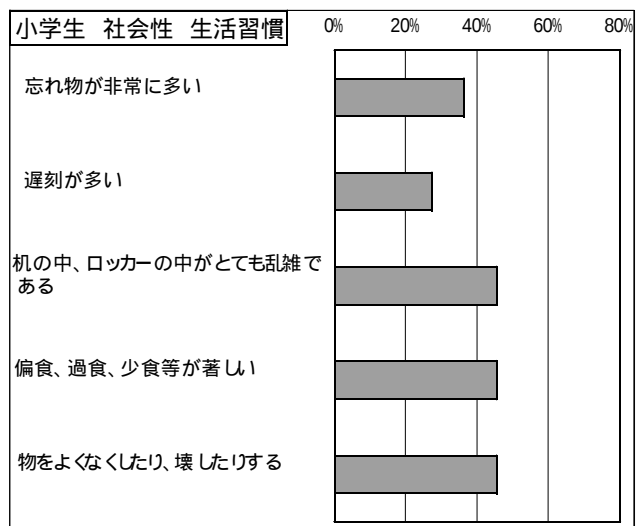
図(2) - 19



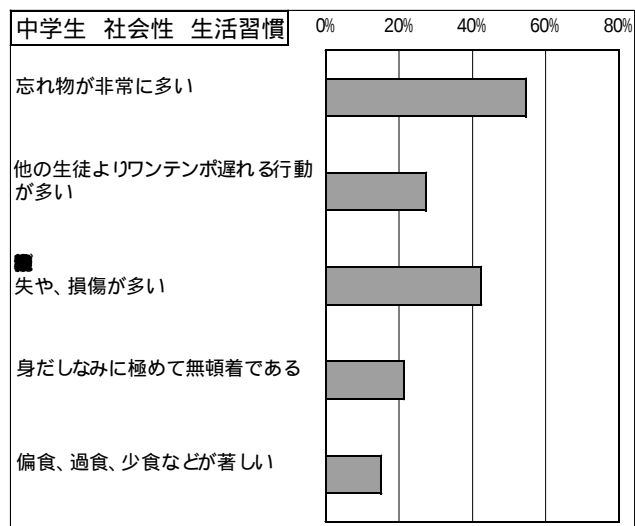
図(2) - 20



図(2) - 21



図(2) - 22



図(2) - 23

第4章 研究のまとめと今後の課題

1	本年度の研究のまとめ		31
2	今後の課題		33

第4章 研究のまとめと今後の課題

1 本年度の研究のまとめ

平成6・7年度の不登校に関する研究及び平成8・9年度のLDに関する研究を踏まえ、今年度は不登校等の要因の一つとして推測される学習のつまずきとLDとの関連を探り、不登校の予防と援助にLDへの対応を生かす方法を見いだすため、調査研究を進めてきました。

分析・考察が不十分なため、整理しきれていないところもありますが、まとめとします。

- (1) 不登校等の児童生徒の中で、LDかもしれない者を含む可能性がある児童生徒群の占める比率は、約2.4%

不登校については、これまで「きっかけ」や「様態」「再登校に有効だった手立て」等についての統計的調査が行われてきましたが、今回の調査では、不登校及び登校しぶりの児童生徒の学習や社会性について詳細な調査を行うことができました。

小学校17校を対象に、平成8年度実施した前回調査では、LDかもしれない児童を含む可能性がある児童群の全在籍数に占める比率は約0.9%でした。それに対して、今回調査では、不登校等を示す児童の中で、LDかもしれない児童が含まれる可能性がある児童群の比率は、約4.0%を示し、不登校等の児童に占める比率の方が明らかに高いことが分かりました。

なお、中学生だけでは約2.1%、小・中学生合計では約2.4%でした。

このことからLDへの対応が、不登校児童生徒の予防や援助にも生かせるのではないかと考えます。

- (2) 類型分析 - 学習や社会性における困難のプロフィールからみる援助の方向性 -

不登校等の児童生徒の中で、LDかもしれない者を含む可能性のある児童生徒群を、困難の偏りをもとにして13の類型に分け、それらの特徴を示しました。

その類型と不登校の状態像との密接な関係を見いだすまでには至りませんでした。が、類型化により、該当児童生徒への援助の方向性を下記のように示すことができました。

困難な領域を援助するだけでなく、困難でない領域や分野で「成就感」や「自己有能感」をもてるように支援する。

教育相談を活用し、誰かが信頼できる他者として寄り添うことで、人間関係を深め基本的な対人関係のスキルを改善し、学校への適応を促していく。

- (3) 分野・項目ごとの困難の傾向とその考察

児童生徒群が示す困難の傾向を、学習や社会性の各分野・項目ごとの指摘率として明らかにしました。その中で、特徴的なものは次の3点です。

小学生と中学生を比較すると、困難の指摘率の差が大きい分野がある。中でも「図形」「数」及び「人間関係」においては中学生の指摘率が顕著に高い。

「図形」や「数」の学習は、学年進行とともにより高度な推論や概念操作を必要とするため、つまずきと困難が累積し、中学生での指摘率の高さとなって現れているのではないかと考えられます。また、つまずきや失敗体験の繰り返し学習での無力感や焦燥感等につながり、さらに「人間関係」における困難を示す傾向の高さとなって現れていると考えられます。

小学生について、前回と今回の調査結果と比較すると、今回の方が多くの項目で指摘率は低い。しかし、「生活習慣」については今回調査の方が高い。

平成8年度の事例研究では、LDかもしれない児童を含む可能性のある児童群の特徴として、乳幼児期の生活で習得しなければならない学齢期での学習の前提になる力(コミュニケーションの力、生活習慣等)が、十分に習得できていないことが明らかになっています。

今回、不登校等の児童の中でLDかもしれない児童を含む可能性のある児童群の特徴として、「生活習慣」がさらに高い比率を示しました。

不登校等への対応が家庭との連携による生活への関わりも含めなければならないことは、広く知られていることですが、不登校等でLDかもしれない者を含む可能性のある児童生徒群については、前回の結果に加えて今回の結果からも、なお一層「生活習慣」に注目した対応が必要であると言えます。

小学生、中学生ともに、困難を指摘される者が多い項目に、LD的な認知¹の弱さに起因する可能性がある項目が含まれる。

言語の「聞く」の「話し合いについていけないことがしばしばある」「相手の話を聞いていないことが多い」などで高い指摘率でした。これは、欠席等の多さという要因も考えられますが、聴覚的な認知²の弱さも否定できません。

また、中学生で、「書く」の「漢字の点画を間違ったり、類似の文字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある」も多く、同様に聴覚や視覚認知面³での困難が背景になっている可能性があります。

LD的な空間認知や推論の弱さに関連する項目としての、図形・数等の「円周率の意味理解と計算」「小数や分数の乗法・除法計算」「多操作計算問題」「変化する数量間の関係の表やグラフでの表現」「数学の用語・記号・求積の公式の使用」なども中学生で高い指摘率です。

実技教科の表現、手指の巧緻性、体のバランスなどに関する項目も高く、LDによく見られる「注意の転導性⁴」「活動水準の偏り⁵(攻撃的反応または消極的反応)」などに関連する社会性・行動の「注意がそれやすい」「活動への取り掛かりが遅い」なども高くなっています。

これらのことから、不登校等でLDかもしれない者を含む可能性のある児童生徒群については、長期欠席中の家庭学習、別室登校での個別学習、登校に向けたかかわり、教育相談場面等において、その認知や心理的な特徴に配慮した援助や支援が必要であることを示しています。

- | | | |
|-----------|---|--|
| 1 認知 | } | 音声がかいていてだけでなく、その音声を意味づけながら聞くことは聴覚認知であり、物がかいていてだけでなく、位置、形、色、大小、相互関係など対象を意味づけながら見ることを視覚認知という。また、自分の体の向き、体と周囲の事物との位置関係や、事物相互の位置関係、方向、大小などを意味づけて、視覚や平衡感覚などを通じて理解することを空間認知という。 |
| 2 聴覚的な認知 | | |
| 3 視覚認知 | | |
| 4 注意の転導性 | | 中枢神経系に機能障害がある場合に、比較的多く見られる心理の特徴の一つ。周囲の刺激に容易に反応してしまうとか、重要なものに注意が向かず、さほど重要でないものに注意が向いてしまう傾向を指す。従って、動く物、音、色などあらゆる感覚刺激が誘因となり、学習が困難になる。
類似の状態の「注意の持続の短さ」は、周囲の誘因刺激がないにもかかわらず、集中できない傾向をいう。 |
| 5 活動水準の偏り | | LDの多くに重複しやすい心理や行動の特徴。早期発見のポイントの特徴。その一つが「多動」で、幼児期と学童前期に多く、次第に改善していく。言語の困難の「多弁」「まとまりのない話し方」、行動面の「注意は集中しているが浅い」「飽きやすい」などといった特徴につながる。 |

2 今後の課題

(1) 「登校しぶり」概念についての研究

今回の調査では登校しぶりの児童生徒も調査対象としました。「登校しぶり」の基準は、遅刻または早退の日数(調査対象期間の半年間で11日)です。この日数は、平成7年度の研究で「登校しぶり」と深い関係が認められる遅刻または早退日数が11日以上であった結果に基づいています。この調査は、生徒本人の回答に基づいて行いました。

今回の児童生徒は、それと同じ基準を用いていますが、調査記入の担当教員によって出席簿の記録から抽出しています。

しかし、調査記入の担当教員からは、「その基準で抽出すると、該当する児童生徒が多くなり過ぎる。どうみても『登校しぶり』とは言えない生徒も含まれる。」といった指摘もありました。

今後、不登校の予防と援助のためにも、それにつながる可能性のある「登校しぶり」の概念及びその調査方法について、更に研究する必要があります。

(2) 中学校における、LDかもしれない者を含む可能性のある生徒群比率についての研究

前回の小学校を対象とした調査結果を参考に、全在籍数に占めるLDかもしれない児童を含む可能性がある児童群の比率と、不登校等に占める同様の児童群の比率を、今回比較しました。けれども、中学校における全在籍数に占める同様の生徒群の比率は、まだ明らかになっていません。

今後、中学生になって急増している不登校等とLDの関連を更に深く研究していくためにも、それを明らかにする必要があります。

(3) LDへの対応を生かした援助や指導についての事例研究

今回の調査で抽出された不登校等の児童生徒の中で、LDかもしれない者を含む可能性のある児童生徒群に対するLDへの対応を生かした援助や指導について、事例研究を行う必要があります。

参考文献

- | | |
|-------------|--|
| 日本文化科学社 | 「学習障害児の教育」 上野一彦・牟田悦子共編著 |
| 京都府総合教育センター | 「教育資料昭和63年度第3号 学校教育相談の手引き - 登校拒否の予防と援助・指導 - 」 |
| | 「同平成7年度第4号 学校教育相談の手引き - 登校拒否の予防と援助・指導(2) - 」 |
| | 「同平成8年度第3号 学習障害を含む学習困難な児童生徒の指導方法(1年次) - 実態調査のまとめ - 」 |
| | 「同平成9年度第3号 学習障害(LD)を含む学習困難な児童生徒の指導方法 - 事例研究のまとめ - 」 |

資 料

調査 の2の児童番号 年()組

下記の1～4領域の各項目について、他の児童と比べて特に思い当たる場合、「✓」を記入してください。

なお、各項目は児童の否定的イメージばかりを表していますが、児童の困難の特徴を具体的に表現するため、このような質問項目になっていることを御理解ください。

1 聞く

場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い	
指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い	
聞いたことがなかなか記憶できない	
相手の話を聞いていないことが多い	
話合いについていけないことがしばしばある	

2 話す

会話がやりとりにならず、一方的に話す	
特定の音が不明瞭である	
助詞の誤りが目立つ話し方をする	
的確なことばを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い	
話題に偏りがあったり、筋道なく思いつくまま語を並べて話す	

3 読む

促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み違える	
一字一字は読めるが、たどり読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い	
行をとばしたり、語を付け加えたりして読む	
基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む	
文章の内容を把握できない	

4 書く

基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う	
促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない	
「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない	
漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、鏡文字を書くことがある	
ある程度のまとまりのある文章が書けない	

調査 の 2 の 児童番号 4 年 () 組

下記の 1 ～ 3 領域の各項目で、他の児童と比べて特に困難を示す場合、「✓」を記入してください。(各項目で、例示内容の一つでも該当すれば、「✓」を記入してください)

1 図形

定規を使って直線を描いたり、長さを測る	
図形（正方形、長方形、三角形など）の構成要素(角、辺、頂点、面など)の特徴をとらえ弁別する	
立体の特徴を平面図形の構成要素でとらえる	
いろいろな図形（四角形、三角形、正方形、長方形、直角三角形など）を描く	
～の上に(下に)～の右に(左に)～の前に(後ろに)などの空間を表すことばの意味が分かる	

2 数

4 位数までの数を正確に読んだり、書き表す（誤答例 三百五を 3005 と書く）	
4 位数までの数の大小や順序を理解する	
4 位数までの加法の筆算で位を揃え、くり上がりくり下がり忘れず、正しい順序で計算する	
4 位数までの減法の筆算で位を揃え、くり上がりくり下がり忘れず、正しい順序で計算する	
3 つ以上の数の含まれる計算をする（例 $4 + 5 - 8$ ）	
乗法九九を暗唱し、1 位数 $\times$ 1 位数の計算をする	
乗数が 1 ずつ増えるときの積の増え方が分かる	
～ずつ(まとめて数える)、幾つ分(何倍)などの乗法計算をする場合のことばの意味が分かる	
簡単な数量関係を表やグラフに表したり、図や数直線を用いて表す	
文章題を読んで、立式する(加法・減法)	

3 日常生活での数に関する力等

電話番号（市外局番を除く程度の桁数）の数字を記憶する	
時間概念を表すことば(きのう・今日・あした、去年・今年・来年、より早い・より遅いなど)の意味が分かる	
日、時、分などについて分かり、日常生活に必要な程度の時刻や時間を計算によって求める	
～から、まで、より(よりも)などの数の増減、時間、順序の基準になることばの意味が分かる	
「長さ」「かさ」の単位が分かり、簡単な測定をする	

調査 の2の児童番号 5年()組

下記の1～3領域の各項目で、他の児童と比べて特に困難を示す場合、「✓」を記入してください。(各項目で、例示内容の一つでも該当すれば、「✓」を記入してください)

1 図形

基本的な図形を用いて、作図や図形の構成をする	
図形(二等辺三角形、正三角形など)の特徴をつかむ	
円や球について、中心・直径及び半径を知る	
コンパスを用いて円を描く	
～の上に(下に)～の右に(左に)～の前に(後ろに)などの空間を表すことばの意味が分かる	

2 数

2位数同士の加法・減法計算を30秒程度の時間内でする	
くり上がりくり下がりをおれず、4位数までの加法・減法の筆算をする	
多操作計算問題を解く(例 $8 \times 2 - 5 \times 3$)	
万の単位について知り、それらの数の大小や順序を理解する	
乗法九九を暗唱し、2位数 $\times$ 3位数で、正しい位取りで筆算をする	
2または3位数 $\div$ 1位数で、正しい位取りで筆算をする	
10倍、100倍、10分の1などの大きさの数及びその表し方が分かる	
簡単な小数、分数の意味を理解し、加法・減法の計算をする	
棒グラフの読み方及び書き方を理解する	
文章題を読んで、立式する(加法・減法・乗法)	

3 日常生活での数に関する力等

電話番号(市外局番を除く程度の桁数)の数字を記憶する	
時間概念を表すことば(きのう・今日・あした、去年・今年・来年、より早い・より遅いなど)の意味が分かる	
日常生活に必要な程度の時刻や時間を計算によって求める	
～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間、順序の基準になることばの意味が分かる	
「重さ」「面積」の単位が分かり、測定をする	

調査 の2の児童番号 6年()組

下記の 1 ～ 3 領域の各項目で、他の児童と比べて特に困難を示す場合、「✓」を記入してください。(各項目で、例示内容の一つでも該当すれば、「✓」を記入してください)

1 図形

直線の平行や垂直の関係について理解する	
図形（平行四辺形、台形、ひし形など）の特徴をつかむ	
立方体及び直方体の特徴をとらえ、見取り図や展開図を描く	
コンパス、三角定規などの器具を用いて、円や多角形を描く	
～の上に（下に）～の右に（左に）～の前に（後ろに）などの空間を表すことばの意味が分かる	

2 数

2 位数同士の加法・減法計算を 3 0 秒程度の時間内でする	
くり上がりくり下がりをおれず、4 位数までの加法・減法の筆算をする	
多操作計算問題を解く(例 $8 \div 2 - 5 \times 3$)	
億・兆の単位について知り、それらの数の大小や順序を理解する	
乗法九九を暗唱し、整数の乗法及び除法の計算をする	
小数の意味を知り、加法及び減法の計算をする	
分数の意味を知り、同分母の分数の加法及び減法の計算をする	
四則の相互関係について理解する	
変化する数量間の関係を表やグラフで表す	
文章題を読んで、立式する(加法・減法・乗法・除法)	

3 日常生活での数に関する力等

電話番号（市外局番を除く程度の桁数）の数字を記憶する	
時間概念を表すことば(きのう・今日・あした、去年・今年・来年、より早い・より遅いなど)の意味が分かる	
日常生活に必要な程度の時刻や時間を計算によって求める	
～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間、順序の基準になることばの意味が分かる	
算数の用語・記号・求積の公式を理解する	

調査 の2の児童番号 年()組

下記の3教科で、他の児童と比べて特に困難を示す項目に「✓」を記入してください。

音 楽	鍵盤ハーモニカ、リコーダー等で学年相当の曲を演奏する	
	鍵盤楽器を演奏する	
	リズムを伴って打楽器を演奏する	
	身体表現をしながら歌をうたう	
	他のパートとの協調を意識して合唱する	

図 工	はさみを使い、直線や曲線に沿って紙を切る	
	折り紙の端を揃えて折る	
	手指、掌等を十分働かせて、粘土で立体を作る	
	彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う	
	見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す	

体 育	ラジオ体操等、徒手体操	
	かけっこ、リレー等の走の運動	
	幅跳び、ゴム跳び、反復横跳び等の跳の運動	
	登り棒、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動	
	縄跳び	
	ボールの操作（投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等）	
	スキップ動作	
	模倣の運動	
	表現運動	
	ゲーム（鬼ごっこ、ドッジボール、ポートボール等）	

調査 の2の生徒番号 年()組

下記の1～3領域の各項目について、他の児童と比べて特に思い当たる場合、「✓」を記入してください。なお、各項目は児童の否定的イメージばかりを表していますが、児童の困難の特徴を具体的に表現するため、このような質問項目になっていることを御理解ください。

1 授業場面における学習態度

席にじっと座ってられないことが目立つ	
おしゃべりが非常に多い	
雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい	
新しいもの、難しそうなものだと「分からない、出来ない」と言って、学習や活動への取り掛かりが遅い	
黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い	
ぼーっとしている時間が多くみられる	
他児にちょっかいを出すことがとても多い	
教師の注意をひこうとする振る舞いが多い	
質問に対して的外れな答えをすることが多い	
手悪さをしばしばする	

2 クラスメートや教師との人間関係

相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い	
他児へのタッチが強すぎたり、けんかが極端に多い	
いつも独りでいて、友達と口をきくことはめったにない	
教師の問いかけに対して黙っていて答えようとしない	
教師からの働きかけに対して口ごたえが多い	

3 生活習慣

忘れ物が非常に多い	
遅刻が多い	
机の中、ロッカーの中がとても乱雑である	
偏食、過食、少食などが著しい	
物をよくなくしたり、壊したりする	

調査 の2の生徒番号 ()年()組

下記の1～4領域の各項目について、他の生徒と比べて特に思い当たる場合、「✓」を記入してください。

なお、各項目は生徒の否定的イメージばかりを表していますが、生徒の困難の特徴を具体的に表現するため、このような質問項目になっていることを御理解ください。

1 聞く

場や状況を理解し、語に込められたニュアンスを感じ取れないことが多い	
指示内容が複数の場合、まごついたり周りを見て行動することが多い	
聞いたことがなかなか記憶できない	
相手の話を聞いていないことが多い	
話合いについていけないことがしばしばある	

2 話す

会話がやりとりにならず、一方的に話す	
特定の音が不明瞭である	
助詞の誤りが目立つ話し方をする	
的確なことばを見つけられなかったり、詰まったりすることが多い	
話題に偏りがあったり、筋道なく思いつくまま語を並べて話す	

3 読む

促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを読み違える	
一字一字は読めるが、たどり読みであったり、順序を読み違えてとばしたり戻ったり、混乱することが多い	
行をとばしたり、語を付け加えたりして読む	
基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を読む	
文章の内容を把握できない	

4 書く

基本的な漢字を習得していないのに、難解な漢字を使う	
促音や拗音、助詞「は」「を」「へ」などを適切に使えない	
「だから」「けれども」などの接続詞を適切に使えない	
漢字の点画を間違ったり、類似の字を書いたり、アルファベットの文字に混同がある	
ある程度のまとまりのある文章が書けない	

調査 の2の生徒番号 ()年()組

下記の1～3領域の各項目で、他の生徒と比べて特に困難を示す場合、「✓」を記入してください。(各項目で、例示内容の一つでも該当すれば、「✓」を記入してください)

1 図形

三角定規・コンパスなどの器具を用いて、図形（円、多角形、平行四辺形など）を作図する	
図形の合同、対称に関して理解する	
基本的な立体の特徴を理解する	
円周率の意味を理解し、計算に用いる	
～の上に(下に)、～の右に(左に)、～の前に(後ろに)などの空間を表すことばの意味が分かる	

2 数

乗法九九を暗唱し、整数の乗法・除法の計算をする	
約数・倍数を理解する	
小数の乗法・除法計算をする	
分数の乗法・除法計算をする	
2位数×(または÷)1位数の暗算をする	
多操作計算問題を解く(例 $12 \times 3 - 45 \div 9$)	
一つの数を他の数の積や商としてみるなど、他の数と関係づける (例 3×4 が12であることは分かるのに、12は3と何の積であるかがわからない)	
百分率を用いた計算をする	
変化する数量間の関係を表やグラフで表す	
文章題を読んで立式する(加法・減法・乗法・除法)	

3 日常生活での数に関する力等

電話番号(市内局番を除く程度の桁数)の数字を記憶する	
時間概念を表すことば(一週間前・同後、一昨日・明後日、一昨年・再来年、より早い、より遅いなど)の意味が分かる	
日常生活に必要な程度の、およその長さや重さや容積の推測をする	
～から、まで、より(よりも)、以上、以下、未満などの数の増減、時間の経過や順序や比較の表現のためのことばを用いる	
数学の用語・記号・求積の公式を用いる	

調査 の2の生徒番号 ()年()組

下記の3教科で、他の生徒と比べて特に困難を示す項目に「✓」を記入してください。

音 楽	リコーダー等旋律楽器で学年相当の曲を演奏する	
	リズムを伴って打楽器を演奏する	
	曲想や気持ちを表現をしながら歌をうたう	
	他のパートとの協調を意識して合唱する	
	集中して鑑賞する	

美 術	はさみやカッターナイフを使い、直線や曲線に沿って紙を切る	
	紙の端を揃えて折ったり、畳んだり、物を包んだりする	
	手指、掌等を十分働かせて、粘土などで造形する	
	彫刻刀、小刀、のこぎり等の道具を危険性を感じさせずに使う	
	見たこと、感じたこと、想像したことを絵に表す	

体 育	ラジオ体操等、徒手体操	
	リレー等の走の運動	
	幅跳び、高跳び、反復横跳び等の跳の運動	
	マット、鉄棒、平均台、跳び箱等の器械運動	
	縄跳び	
	ボールの操作（投げる、受け止める、渡す、蹴る、ドリブル等）	
	スキップ動作	
	模倣の運動	
	表現運動	
	ゲーム（バスケット、バレー、サッカー等）	

調査 の2の生徒番号 ()年()組

下記の1～3領域の各項目について、他の生徒と比べて特に思い当たる場合、「✓」を記入してください。

なお、各項目は生徒の否定的イメージばかりを表していますが、生徒の困難の特徴を具体的に表現するため、このような質問項目になっていることを御理解ください。

1 授業場面

席にじっと座ってられないことが目立つ	
おしゃべりが非常に多い	
雑音で課題から注意がそれやすく、持続することがとても難しい	
学習活動への取り掛かりが遅い	
黒板の視写に時間がかかったり、作業が極端に遅い	
ぼーっとしている時がしばしば見られる	
他の生徒にちょっかいを出すことがとても多い	
授業と関係ないことに没頭することがしばしばある	
質問に対して的外れな答えが多い	
手悪さをしばしばする	

2 クラスメートや教師との人間関係

相手の嫌がることをしたり、言ったりすることがたいへん多い	
他の生徒へのタッチが強すぎたり、トラブルやけんかが極端に多い	
教師の声掛けや働きかけに対して、過敏であったり攻撃的な反応をしめしたりすることが多い（逆に、答えようとしなかったり、消極的反応が多い）	
話題が偏っていたり、その場の流れに合わない応答が多い	
独りでいることが多く、友達と口をきくことも少ない	

3 生活習慣

忘れ物が非常に多い	
他の生徒よりワンテンが遅れる行動が多い	
机やロッカーの中がとても乱雑で、物をなくすことや、壊してしまうことが多い	
身だしなみに極めて無頓着である	
偏食、過食、少食などが著しい	

お　わ　り　に

当センターでは個に応じた指導の具現化に役立つ研究事業として、今年度は「不登校や学習障害等を示す児童生徒への援助・指導に関する研究」のテーマで実態調査を行いました。

本教育資料は、その結果及び考察としてまとめました。

考察は、まだまだ深め方が足りませんが、各学校で活用していただける部分もあるのではないかと自負しています。

研究を更に進めていくため、各方面の御意見、御指導及び情報提供への御協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、調査の実施にあたりまして、全教育局、関係教育委員会、該当小・中学校にたいへんお世話になりました。御協力に対し厚くお礼申し上げます。

京都府総合教育センター

障害児教育研究部

主 題 名 : 不登校や学習障害等を示す児童生徒への援助・指導
副 題 名 : - 調査研究のまとめ -
著 者 名 : 石 村 卓 也
掲 載 誌 名 : 京都府総合教育センター・教育資料平成 10 年度第 2 号
刊 行 年 月 : 1999 年 03 月
掲載ページ : 00001 ~ 00044

キーワード : 不登校、登校しぶり、学習困難、社会性、領域、分野、項目、偏り、学習障害、LD、プロフィール、教育相談、援助・指導、指摘率
研究対象 : 小学校第 4 ~ 6 学年児童、中学校全学年生徒
研究方法 : 調査研究
文献種類 : 指導資料
内容要約 : 児童生徒数が原則として 400 名以上の小・中学校において、不登校等の児童生徒の学習や社会性の調査を行った。そのうち、LD かもしれない児童を含む可能性がある学習や社会性における困難に偏りがある児童の比率は、平成 8 年度調査の在籍全児童数に対する比率よりも有意に高いことが分かった。個別のプロフィール及び分野別・項目別指摘率等の分析により、不登校等の児童生徒の中に、LD への対応を生かした援助・指導を配慮する必要がある児童生徒が存在することが検証できた。
要約作成者 : 赤 木 弘 文
保存機関名 : 京都府総合教育センター

教育資料 平成 10 年度第 2 号

不登校や学習障害等を示す 児童生徒への援助・指導 - 調査研究のまとめ -

発 行 平成 11 年 3 月
京都府総合教育センター
〒 612-0064 京都市伏見区桃山毛利長門西町
T E L 075-612-3266
F A X 075-612-3267
ホームページ URL <http://www1.kyoto-be.ne.jp>
E-mail ed-center@kyoto-be.ne.jp